

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	龍谷大学
設置者名	学校法人龍谷大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
文学部	真宗学科	夜・通信				101	13	
	仏教学科	夜・通信				101	13	
	哲学科	夜・通信				101	13	
	臨床心理学科	夜・通信		101		101	13	
	歴史学科	夜・通信				101	13	
	日本語日本文学科	夜・通信				101	13	
	英語英米文学科	夜・通信				101	13	
経済学部	現代経済学科	夜・通信				32	13	
	国際経済学科	夜・通信				32	13	
経営学部	経営学科	夜・通信			16	16	13	
法学部	法律学科	夜・通信			22	22	13	
理工学部	数理情報学科	夜・通信			9	19	13	
	電子情報学科	夜・通信			29	39	13	
	機械システム工学科	夜・通信			15	25	13	
	物質化学科	夜・通信			9	19	13	

	情報メディア学科	夜・通信		20	30	13	
	環境ソリューション工学科	夜・通信		16	26	13	
社会学部	社会学科	夜・通信	24		24	13	
	コミュニティマネジメント学科	夜・通信			24	13	
	現代福祉学科	夜・通信			24	13	
政策学部	政策学科	夜・通信		28	28	13	
国際学部	国際文化学科	夜・通信	16	26	42	13	
	グローバルスタディーズ学科	夜・通信		18	34	13	
農学部	植物生命科学科	夜・通信	17		17	13	
	資源生物科学科	夜・通信			17	13	
	食品栄養学科	夜・通信			17	13	
	食料農業システム学科	夜・通信			17	13	

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

大学ホームページにて公表 https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/jitsumu/

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	龍谷大学
設置者名	学校法人龍谷大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

大学ホームページにて公表 https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/organaization/office_list_01.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	浄土真宗本願寺派宗会議員	2016.12.21 ～ 2020.12.20	「建学の精神」を踏まえた組織運営体制へのチェック機能と経営計画の策定
非常勤	僧侶	2016.12.21 ～ 2020.12.20	「建学の精神」を踏まえた組織運営体制へのチェック機能と経営計画の策定
非常勤	元企業経営者	2016.12.21 ～ 2020.12.20	「企業運営の知見」に基づく組織運営体制へのチェック機能と経営計画の策定
非常勤	議員	2016.12.21 ～ 2020.12.20	「文教政策等の諸施策」を踏まえた組織運営体制へのチェック機能と経営計画の策定
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	龍谷大学
設置者名	学校法人龍谷大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>本学で開講されるすべての講義について、授業計画書(シラバス)を作成し、公表している。授業計画書(シラバス)の作成にあたっては、教員に「シラバス作成の手引き」を提示し、授業計画書(シラバス)の目的や役割を説明している。また手引きでは、授業計画書(シラバス)に記載する到達目標や講義方法、成績評価の方法等の各項目について記載方法や記載例を示して説明を行っており、各教員は手引きに基づき授業計画書(シラバス)の作成を行っている。</p> <p>また、授業計画書(シラバス)については、以下のスケジュールで作成し、大学ホームページにて公表している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月 「シラバス作成の手引き」の提示 ・12月下旬 授業担当者へ授業計画書(シラバス)作成依頼 ・12月下旬～3月中旬 授業計画書(シラバス)の作成 ・3月中旬 授業計画書(シラバス)の公表 	
授業計画書の公表方法	<p>大学ホームページにて公表</p> <p>https://capella.ws.ryukoku.ac.jp/RSW/CNoSS0.do</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>すべての学部において、以下の成績評価方法と成績評価の基準を履修要項にて示した上で、授業科目における学修成果の評価を厳格かつ適正に行っている。</p> <p>1. 成績評価の方法</p> <p>成績評価には、主に次の4種類の方法で行っており、これらのうちのひとつまたは複数を組み合わせて評価している。各科目の成績評価方法は、その科目の特性に応じて授業担当者によって定められており、その内容はシラバスに明示している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 筆答試験による評価 ② レポート試験による評価 ③ 実技試験による評価 ④ 授業への取組状況や小テストなど、上記試験による評価の他に、担当者が設定する方法による評価 	

2. 成績評価の基準

- ① 成績評価は、100 点を満点とし、60 点以上を合格、それを満たさない場合は不合格とする。
- ② 一度合格点を得た科目（＝既修得科目）は、いかなる事情があっても、再度履修し成績評価を受けることはできない。
- ③ 履修登録した科目の試験を受験しなかった場合、その試験の評価は 0 点とする。ただし、この場合でも、試験による評価以外に授業担当者が設定する方法により評価される場合がある。
- ④ 段階評価と評点の関係は、次のとおりである。

段階評価と評点

S (90～100 点) A (80～89 点) B (70～79 点) C (60～69 点)

上記の段階評価以外に、実習科目は G (合格)・D (不合格) で評価する場合がある。単位認定された科目の場合は N (認定) となる。

- ⑤ 学業成績証明書は、すべて段階評価で表示し、不合格科目は表示しない。
- ⑥ 学業成績表は、第 1 学期（前期）分を 9 月中旬、第 2 学期（後期）分を 3 月下旬に配付する。

3. 成績評価において、GPA 等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

すべての学部において、成績評価の客観的な指標として GPA を採用している。GPA を活用することで、客観的な数値に基づいて学修成果を測定し、学生に適切な学修指導に役立てている。

各教科の評価点（100 点満点）を次表のように換算しなおし、その合計を登録科目の総単位数で割って算出しており、算出方法については履修要項で示している。

評価点	グレイドポイント
100～90 点	4
89～80 点	3
79～70 点	2
69～60 点	1
59 点以下	0

$$\text{GPA} = \frac{\Sigma (\text{登録科目のグレイドポイント} \times \text{単位数})}{\Sigma (\text{登録科目の単位数})}$$

客観的な指標の
算出方法の公表方法

すべての学部の履修要項に記載

<https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/rishu.html>

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学において、学部・研究科の「教育理念・目的」と3つの方針策定の基本方針を次のとおり定めている。</p> <p>「龍谷大学の教育理念・目的を実現するために設置された学部・研究科は、広く社会に貢献できる教養教育・専門教育及びより高度な専門教育・研究を体系的かつ組織的に行うにあたり、各学問分野の独自性を活かしつつ、社会の要請等を踏まえた教育理念・目的を掲げ、卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針を一体的に策定する。」</p> <p>この基本方針にもとづき、全学教学政策会議において、学長のリーダーシップのもと、卒業認定・学位授与の方針を定め、学生に保証する基本的な資質・能力や学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法を定めて適切に実施している。</p> <p>また、卒業認定・学位授与の方針は、履修要項に記載して、学生、教職員に周知するとともに大学ホームページを通じて、ステークホルダー等に幅広く公表している。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>大学ホームページにて公表 https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	龍谷大学
設置者名	学校法人龍谷大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	大学ホームページにて公表 (https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_02.html)
収支計算書又は損益計算書	大学ホームページにて公表 (https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_02.html)
財産目録	大学ホームページにて公表 (https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_02.html)
事業報告書	大学ホームページにて公表 (https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_02.html)
監事による監査報告(書)	大学ホームページにて公表 (https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_02.html)

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:事業計画)	対象年度:2019年度)
公表方法:大学ホームページにて公表 (https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/bizplan/p_2019.html)	
中長期計画(名称:第5次長期計画)	対象年度:2010~2019年度)
公表方法:大学ホームページにて公表 (https://www.ryukoku.ac.jp/2020/)	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:大学ホームページにて公表 公表先URL: https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/evaluation/evaluation.html
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:直近で行った「認証評価の結果」、「点検・評価報告書」及び「基礎データ」等を大学ホームページにて公表。 これらの内容を刊行物として取りまとめ、関係する機関等に送付。 公表先URL: https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/accreditation.html タイトル:「開発(かいほつ) 第4部」(大学編) 入手方法:問合せによる対応 配付先:龍谷総合学園関係校、私立大学連盟加盟校、大学コンソーシアム京都加盟校
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 : 文学部
教育研究上の目的 (公表方法: 大学ホームページにて公表 https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen)
(概要) 【文学部の教育理念・目的】 建学の精神に基づいて、人文学の知的体系の研究・教授を通じ、現代社会の複雑な変化や諸問題に、自己を見失うことなく積極的・主体的に対応しつつ、社会に貢献できる教養及び専門性を備えた人間を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法: 大学ホームページにて公表 https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen)
(概要) 【卒業認定・学位授与の方針〔学士(文学)〕】 文学部の「教育理念・目的」を達成していくために、すべての学生に保証する基本的な資質・能力、学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方針を次に掲げる。 文学部の学生に保証する基本的な資質・能力 <u>①建学の精神の具現化</u> ・建学の精神の意義について理解している。 <u>②(③の基礎となる)「知識・技能」の修得</u> ・人間社会において「言語(ことば)」の持つ影響力について深く理解し、人文学の幅広い知識を身につけている。 ・日本語を正確に理解し、論理的な文章を書くと同時に、自らの見解を分かりやすく伝達するための方法を身につけている。 ・外国語運用能力や豊かな教養を身につけている。 <u>③(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)」の発展・向上</u> ・他者との相互理解を可能とするような対話能力を身につけている。 ・自らが設定した課題について、探求、発見、追究、解決という一連のプロセスを達成する能力を多角的に身につけている。 ・論理的思考力を培い、現代社会が問いかける問題に対して、多角的に思考・判断することができる。 <u>④主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上</u> ・多様な価値観を認め、言語(ことば)の学修をはじめとした学びを通じて自己の認識を広げ、異なる価値観を受容することができる。

- ・他者との交流や異なる価値の受容を通じて、自己を客観視し、他者と協働することができる。
- ・社会が必要とする職業観・勤労観と生涯を通じた持続的な就業力を身につけている。

学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法

1. 学部に4年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。
2. 卒業認定を受けるためには、所定の124単位以上の単位数を必要とする。
3. 卒業年次には、「卒業論文」を提出しなければならない。卒業論文提出後に口述試問を実施し、複数の教員によって厳格な評価を行う。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表
<https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen>）

（概要）

【教育課程編成・実施の方針】

文学部では、卒業時に「教育理念・目的」や、「卒業認定・学位授与の方針」に明示した「学生に保証する基本的な資質・能力」を確実に身につけられるように確かなカリキュラムを編成している。具体的には以下の方針に基づく。

文学部の教育内容

①建学の精神の具現化

- ・建学の精神の意義について理解するために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想A」・「仏教の思想B」）を全学必修科目として開講する。

②（③の基礎となる）「知識・技能」の修得

- ・外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。
- ・諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講し、基幹科目を設置する。
- ・人文学に関する知識・技能を身につけるために「普通講義」を開講する。
- ・大学での学びの基本的な方法や、日本語の文章作成のための能力を育成するために「基礎演習」（1・2年次）を配置する。
- ・学生が自主的に設定した学修テーマを追究し、問題解決へと至る知識と技能を養成するために、「演習Ⅰ」（3年次）および「演習Ⅱ」（4年次）を開講する。
- ・文献を読解する能力の養成をはかり、それによって人文学の幅広い教養を身につけることができるように、「講読」科目を2年次以降に開講する。

③（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上

- ・外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。
- ・幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、

2年次配当（第3・第4セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講する。

- ・学生が自主的に設定した学修テーマに基づく発表やレポート作成等を通じて、課題を追究し、解決へと至る能力を養成するために、「演習Ⅰ」（3年次）および「演習Ⅱ」（4年次）を開講する。また、これらの活動を通じて思考力・判断力・表現力を伸張するために「卒業論文」を必修とする。
- ・批判的能力やものごとの本質を見極める力を養成するために「基礎演習」「演習」科目を全学年で設置し、「普通講義」等で学んだ知識を現実の社会で活用できる能力を養成する。
- ・人文学の専門領域の研究を通じて見いだされた知見をもとに思考力・判断力・表現力を高めるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から開講する。

④主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上

- ・学生同士がディスカッションを行う中で、知識を構成していきけるように、4年間を通じて開講される「基礎演習」「演習」では少人数のクラス編成を行い、TA、学修支援員のサポートによって学生同士が共に学ぶことの意味を探究させられるようにする。
- ・学科専攻の枠を超えた科目履修によって人文学の多様な専門領域を学ぶ学生が共に学べるように選択科目を設定する。
- ・社会が必要とする職業観・勤労観を醸成し、生涯を通じた持続的な就業力を育成するために、「キャリア啓発科目」と「キャリア形成科目」を開設する。

教育方法

- ・学生が自らの学修目的にあわせて各科目の性格やその科目の開講時期（配当セメスター）を考慮しながら系統的に履修できるよう科目（講義・演習・講読・実技・実験・実習等）を開設する。
- ・全ての科目は、講義概要・到達目標・講義方法・授業評価の方法・授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。

学修成果の評価

- ・学修成果の有無やその内容を評価するために、科目の特性に応じて、おおよそ次の4種類の方法のうちの一つまたは複数を合わせて評価を行う。
 - ① 筆答試験による評価
 - ② レポート試験による評価
 - ③ 実技試験による評価
 - ④ 授業への取組状況や小テストなど、担当者が設定する方法による評価
- ・卒業論文の評価は、論文評価と口述試問評価によって行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表
<https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen>）

（概要）

【入学者受入れの方針】

文学部では、建学の精神に基づいて、人文学の知的体系の研究・教授を通じ、

現代社会の複雑な変化や諸問題に、自己を見失うことなく積極的・主体的に対応しつつ、社会に貢献できる教養及び専門性を備えた人の育成を目指している。

そのため、次のような人が入学することを求めている。

1. 文学部の教育理念や目的を十分に理解している人
2. 明確な目的意識と学修意欲とを持った人
3. 人文学の基盤となる「言葉」に対する鋭い感覚と正しい理解、そして豊かな運用能力のさらなる向上をめざして努力することのできる人

については、高等学校等での学習では、直接「言葉」に関する教科である「国語」、「英語（外国語）」を中心としつつ、志望する学科・専攻での専門的な学修に必要な基礎的学力を養いうる教科についても幅広く学んでおくことを望む。

学部等名 : 経済学部

教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公表

<https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen>

（概要）

【経済学部の教育理念・目的】

建学の精神に基づいて、経済学が培ってきた基礎的理論や社会の経済的諸現象を論理的に分析する能力を修得し、さらに国際的・地域的な多様性を理解して、課題の発見と解決に努める人間を育成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表

<https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen>

（概要）

【卒業認定・学位授与の方針【学士（経済学）】】

経済学部の「教育理念・目的」を達成するために、すべての学生一人ひとりに必要と考えられる培うべき基本的な資質・能力は、次の通りである。

経済学部の学生に保証する基本的な資質・能力

○教養教育科目により保証する資質・能力 ●専攻科目により保証する資質・能力

①建学の精神の具現化

○建学の精神の意義について理解している

②（③の基礎となる）「知識・技能」の修得

○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけている。

○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけている。

●経済学（およびその周辺科学）の理論を理解し、言語や情報機器を含めて、質的・量的な分析スキルを身につけている。

③（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考

力・判断力・表現力)」の発展・向上

- 外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解することができる。
- 幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現することができる。
- 経済学の論理的な分析に基づいて、具体的な政策を立案し、様々な方法で表現・発表できる。
- 国際的・地域的な多様性を理解する。

④ 主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上

- 周囲と協力しながらも、常に主体的に課題の発見と解決に努める。
- 社会が必要とする職業観・勤労観と生涯を通じた持続的な就業力を身につけている。

学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法

1. 学部に4年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。ただし、所定の科目を特別に優秀な成績で修得したと教授会が認めた者については、3年以上の在学で卒業を認定することができる。その取扱いについては、別にこれを定める。
2. 卒業認定を受けるためには、所定の124単位以上の単位数を必要とする。
3. 学部共通コース所属学生は、所属コースの修了要件を満たすこと。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表
<https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen>）

（概要）

【教育課程編成・実施の方針】

経済学部の「教育理念・目的」「卒業認定・学位授与の方針」に明示したすべての学生に必要な基本的資質・能力が獲得できるよう、教養教育科目および専攻科目から構成される、体系的な教育課程を編成・展開する。また、学生一人ひとりが有する学修目標に柔軟に対応できるように学習環境・支援体制を整備する。

経済学部の教育内容

○教養教育科目にかかる教育内容 ●専攻科目にかかる教育内容

①建学の精神の具現化

- 建学の精神の意義について理解するために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想A」「仏教の思想B」）を全学必修科目として開講する。

②（③の基礎となる）「知識・技能」の修得

- 外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。
- 諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講し、基幹科目を設置する。

- 「経済学の基礎Ⅰ/Ⅱ」をはじめとする基礎科目を1年次および2年次前期に開講することで、経済学（およびその周辺科学）の基礎的な知識・技能を学生生活の早い段階で身につけ、2年次後期以降のより進んだ学習に備える。

③(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)」の発展・向上

- 外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解する能力を身につけるために、2年次配当(第3・第4セメスター配当)の言語科目(英語および英語以外の複数の外国語科目)を開講する。
- 幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、2年次配当(第3・第4セメスター配当)の教養科目(人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系)を開講する。
- 全員履修科目「入門演習」「基礎演習Ⅰ/Ⅱ」などで、表現力や思考力の向上に努める。
- 両学科に10のプログラム科目群を開講することで、系統的により深く経済学を学び、理論の応用や政策の立案に必要な思考力・判断力を身につけるとともに、国際的・地域的な多様性について理解する。
- コミュニケーション能力育成科目を開講し、英語による表現力の向上に努める。

④主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上

- 1年次から4年次にいたるまで、少人数・双方向教育による演習系科目を開講し、主体性と協働性を身につける。
- 現場参画型・実習型の科目を開講することで、国際的・地域的な多様性について理解を深め、その上で主体的に課題を発見し解決に努める資質を養う。
- 社会が必要とする職業観・勤労観を醸成し、生涯を通じた持続的な就業力を育成するために、「キャリア啓発科目」と「キャリア形成科目」を開講する。

教育方法

- ・学生が自らの学修目的にあわせて各科目の性格やその科目の開講時期(配当セメスター)を考慮しながら系統的に履修できるよう科目(講義・演習・講読・実技・実験・実習等)を開講する。
- ・全ての科目は、講義概要・到達目標・講義方法・授業評価の方法・授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。

学修成果の評価

- ・学修成果の有無やその内容を評価するために、科目の特性に応じて、おおよそ次の4種類の方法のうちのひとつまたは複数を合わせて評価を行う。

- ① 筆答試験による評価
- ② レポート試験による評価
- ③ 実技試験による評価
- ④ 授業への取組状況や小テストなど、担当者が設定する方法による評価

入学者の受入れに関する方針(公表方法:大学ホームページにて公表
<https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen>)

(概要)

【入学者受入れの方針】

経済学部では、21世紀初頭において日本と世界の経済が大きな転換期を迎えるなかで、経済のグローバル化、情報化、地域経済の役割の増大などといった現代社会が直面する課題に対応できるような人の育成を目指している。

そのため、次のような人が入学することを求めている。

1. 社会に対する幅広い関心を持ち、主体的に学修できる人
2. 様々なツールを用いて、自己を豊かに表現する能力をもった人
3. 新たな問題を発見し、その解決に自ら進んで取り組む人

については、高等学校等での学習では、経済学部で教育を受けるうえで必要な幅広い教科の内容をしっかりと勉強することを望む。

学部等名 : 経営学部

教育研究上の目的 (公表方法: 大学ホームページにて公表)

<https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen>

(概要)

【経営学部の教育理念・目的】

建学の精神に基づいて、経営学の理論を修得させることに加えて、実践的かつ実学的素養を身につけさせることを教育理念とする。また、激しい時代の変化に対応でき、社会から信頼される経営人を育成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針 (公表方法: 大学ホームページにて公表)

<https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen>

(概要)

【卒業認定・学位授与の方針 [学士 (経営学)]】

経営学部では、コース (モデル) 制を導入している。各々のコース (モデル) には卒業要件の科目と単位数を設定するとともに、教育課程を体系化させ、経営学部が掲げる5つの「最低到達目標」を達成し、変化の激しい時代に対応できる能力 (課題発見・解決能力) を修得した学生に学士 (経営学) の学位を授与する。

経営学部の「教育理念・目的」を達成するために、すべての学生一人ひとりに必要と考えられる培うべき基本的な資質・能力、学位授与に必要とされる単位数および卒業認定の方法を次に掲げる。

経営学部の学生に保証する基本的な資質・能力

建学の精神

- ・仏教、ことに浄土真宗に根ざす建学の精神の意味を深く理解している。
- ・建学の精神に基づいて、豊かな人間性と高い倫理観をそなえ、社会的責務に対する自覚を持っている。

知識・理解

- ・建学の精神を理解し、社会人として通用する素養と倫理観を身につけている。
- ・広く国際感覚を持っている。
- ・幅広い学問領域について基礎的な知識を持ち、それぞれの領域が持つ見方について説明することができる。
- ・幅広く社会全体を見渡す視野を持ち、現代社会において何が問題であるかを認識することができる。

思考・判断

- ・幅広い分野の知識・理解をもとに、論理的思考力を培い、現代社会が問いかける問題に対して、多角的に思考・判断することができる。
- ・学修した専門領域での知識を切り口に現代企業の特徴を説明することができる。
- ・学修した専門領域での知識を基にして、直面する経営の問題を判断することができる。

興味・関心・態度

- ・現代社会と企業が抱える課題に興味・関心を持っている。
- ・人間とそれを取りまく環境について、探究心を持って具体的な課題設定ができる。
- ・言語の学修を通じて、世界の多様性に関心を寄せ、異文化を受容できる。
- ・自律的に学習し続ける態度を身につけている。
- ・多様な価値観を認め、学びを通じて自己の認識を広げ、感性を磨くことができる。
- ・他者との交流や異なる価値の受容を通じて、とらわれがちな見方を解放し、他者との協働により自己を客観視することができる。

技能・表現

- ・語学力を身につけ、基本的なコミュニケーションができる。
- ・知的情報の受信、選択、分析、発信を基本とするコミュニケーション能力の基礎を身につけている。
- ・自分の考えを文章に表現し、それを発表し討議することができる。
- ・基本的な財務諸表類を読み、会社の概要を説明することができる。

学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法

1. 学部に4年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。ただし、所定の科目を特別に優秀な成績で修得したと教授会が認めた者については、3年以上の在学で卒業を認定することができる。その取扱いについては、別にこれを定める。
2. 卒業認定を受けるためには、所定の125単位以上の単位数を必要とする。
3. 学部共通コース所属学生は、所属コースの修了条件を満たすこと。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表
<https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen>）

（概要）

【教育課程編成・実施の方針】

経営学部の「教育理念・目的」「卒業認定・学位授与の方針」に明示したすべての学生に必要な基本的な資質・能力が獲得できるよう、教養教育科目及び専攻科目から構

成される、体系的かつ系統的な教育課程を編成・展開する。また、学生一人ひとりが有する学修目標に柔軟に対応できるように学習環境・支援体制を整備する。

経営学部の教育内容

- ・「仏教の思想」科目として、「仏教の思想 A・B」（各2単位）合計4単位を、1年次配当（第1・第2セメスター配当）で全学必修科目として展開する。
- ・教養科目として、人文科学系科目・社会科学系科目・自然科学系科目の3系列とスポーツ科学系科目に属する科目を幅広く開設し、幅広い教養を身につける基本とする。
- ・教養科目には基幹科目を設け、基幹科目のうち、人文科学系・社会科学系・自然科学系の各分野からそれぞれ2単位以上を選択必修科目として展開する。
- ・言語科目として、英語および英語以外の複数の外国語科目を開設する。留学生にはこれらに代わる日本語科目を開設する。
- ・専攻科目を1年次から配置して、基礎から専門科目へと段階的・系統的に科目を配置し、体系的なカリキュラムを展開する。
- ・具体的には、1年次の第1セメスターで専攻基礎科目群必修科目として「情報リテラシー」、「現代のビジネス」、「簿記入門」、「経営と情報」を開講する。
- ・経営学や会計学に対する知的好奇心や関心を持てるように、1年次に必修科目として「情報リテラシー」、「現代のビジネス」、「簿記入門」、「経営と情報」、「現代の企業会計」を開講する。
- ・専攻科目を履修する準備段階として、専攻基礎科目群選択必修科目として「現代企業の成り立ち」、「現代社会と企業」、「経営とコンピュータ利用」、「マーケティングの基礎」、「企業の国際化」、「企業経営の管理」、「日本と世界の経済」、「初級商業簿記」の8科目を1年次に配置するとともに、基礎演習・演習・応用演習と組み合わせて開講する。
- ・学生の将来の進路を想定して、経営コースと会計コースの2コース制をとっている。さらに、経営コースでは、3つのモデル、「組織をリードするモデル」、「市場と情報を活用するモデル」、「世界へ羽ばたくモデル」を設置し、各々のモデルにおいて専攻科目のモデル必修科目、モデル選択必修科目、モデル選択科目を系統的に編成する。
- ・経営コースでは、理論教育だけでなく、ビジネスの現場で学ぶ実習教育を重視し、4つのプログラム科目を展開する。
- ・学生の習熟度に応じて勉学に興味・関心をもたせるため、1年生から4年生まで通して、少人数・双方向の演習を開講している。すなわち「フレッシューズゼミ」（1年次第1セメスター）、「基礎演習」（1年次第2セメスター～2年次第3セメスター）、演習（2年次第4セメスター～4年次第8セメスター）、応用演習（3年次第6セメスター）を配置している。
- ・学生の興味・関心に沿った学修をより深く行わせるため、コース制（経営コース〈3つのモデル〉、会計コース）を敷く。各コース（モデル）で学修する内容は、各コース（モデル）の設置趣旨に合わせて科目を系統的に編成する。
- ・大学で学ぶことの意味を考え、ディスカッションの仕方やレポートの書き方などの基本的な技術を身につけるために、1年次の第1セメスターに「フレッシューズゼミ」を開講する。
- ・ワープロ、表計算など、プレゼンテーションの基本的スキルを身につけるために、1年次に必修科目として「情報リテラシー」を開講する。

教育方法

- ・学生が自らの学修目的にあわせて各科目の性格やその科目の開講時期（配当セメスター）を考慮しながら系統的に履修できるよう科目（講義・演習・講読・実

<p>技・実験・実習等) を開設する。</p> <p>・全ての科目は、講義概要・到達目標・講義方法・授業評価の方法・授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。</p> <p>学修成果の評価</p> <p>・学修成果の有無やその内容を評価するために、科目の特性に応じて、おおよそ次の4種類の方法のうちの一つまたは複数に合わせて評価を行う。</p> <p>① 筆答試験による評価</p> <p>② レポート試験による評価</p> <p>③ 実技試験による評価</p> <p>④ 授業への取組状況や小テストなど、担当者が設定する方法による評価</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen）</p> <p>（概要）</p> <p>【入学者受入れの方針】</p> <p>経営学部では、学生のそれぞれの学修目標にあわせて、少人数の演習学修と、理論と実践を組み合わせたカリキュラムを提供することによって、変化の激しい時代に対応でき、社会から信頼される経営人（働くことを通して社会に貢献する人材）を育成することを目指している。</p> <p>そのため、次のような人が入学することを求めている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 明確な目的意識と学修意欲をもった人 2. さまざまな場面で基本的な能力として求められるコミュニケーション能力をもった人 3. 知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む人 <p>ついでには、高等学校等での学習では、国語や外国語の習得によりコミュニケーション能力を磨き、また社会科科目の幅広い習得により知的好奇心を高めることを望む。</p>

<p>学部等名　：法学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen）</p> <p>（概要）</p> <p>【法学部の教育理念・目的】</p> <p>建学の精神に基づいて、日本国憲法の理念を基礎に、法学と政治学の教育・研究を通じて、広い教養と専門的な知識をもって主体的に行動し、鋭い人権感覚と正義感のもとに自ら発見した問題を社会と連携して解決できる、自立的な市民を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen）</p>

(概要)

【卒業認定・学位授与の方針〔学士（法学）】】

法学部の「教育理念・目的」に基づき、以下の基本的な資質・能力を備えるに至った学生に学士（法学）の学位を授与する。

法学部の学生に保証する基本的な資質・能力

○教養教育科目により保証する資質・能力 ●専攻科目により保証する資質・能力

①建学の精神の具現化

○建学の精神の意義について理解している。

- 建学の精神と日本国憲法の理念に基づき豊かな人間性と鋭い人権感覚を身につけた自律的な市民となる。

② (③の基礎となる)「知識・技能」の修得

○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけている。

○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけている。

- 法学・政治学に関する専門的な知識を身につけ、それらを基礎に現代社会が抱えるさまざまな矛盾に対して問題意識をもつことができる。

③ (④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上

○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解することができる。

○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現することができる。

- 自ら発見した問題を法学・政治学的に分析し、自身の考えに基づいて解決策を提示することができる。

④主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上

●主体的に学び続けるとともに、他者との交流や異なる価値の受容を通じて自己を客観視することができる。

- 社会が必要とする職業観・勤労観と生涯を通じた持続的な就業力を身につけている。

学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法

1. 学部に4年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。
2. 卒業認定を受けるためには、所定の124単位以上の単位数を必要とする。
3. 学部共通コース所属学生は、所属コースの修了要件を満たすこと

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表
<https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen>）

(概要)

【教育課程編成・実施の方針】

法学部の「教育理念・目的」「卒業認定・学位授与の方針」に明示したすべての学生に必要な基本的資質・能力が獲得できるよう、教養教育科目および専攻科目から構成される、体系的かつ系統的な教育課程を編成・展開する。また、学生一人ひとりが有する学修目標に柔軟に対応できるよう学習環境・支援体制を整備する。

法学部の教育内容

○教養教育科目にかかる教育内容 ●専攻科目にかかる教育内容

①建学の精神の具現化

○建学の精神の意義について理解するために、1年次配当（第1・第2 Semester 配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想 A」・「仏教の思想 B」）を全学必修科目として開講する。

●建学の精神に基づく豊かな人間性と鋭い人権感覚を備えた自律的な市民を育てるために、法学・政治学の科目を開講する。

② (③の基礎となる)「知識・技能」の修得

○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、1年次配当（第1・第2 Semester 配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。

○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、1年次配当（第1・第2 Semester 配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講し、基幹科目を設置する。

●法学・政治学に関する専門的な知識を身につけ、現代社会が抱えるさまざまな問題を認識できるようにするために、第1 Semester から第3 Semester に「履修指導科目」および「基礎的演習科目」を配置する。

③ (④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上

○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4 Semester 配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。

○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4 Semester 配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講する。

●自ら発見した問題を法学・政治学的に分析し、その解決策を提示できるようにするために、第3 Semester から段階的・系統的に学べるよう法学・政治学の科目を配置するとともに、第4 Semester からはコース制をとり、併せて少人数で実施する専門的な演習を開講する。

④主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上

●他者との交流や異なる価値の受容を通じて、自己を客観視できるようにするために、第4 Semester 以降に、実習プログラムを含む科目、アクティブ・ラーニング科目、実習科目、大学院との合同開講科目、学外他機関との単位互換科

目等、多様な学びを可能にする諸科目を配置する。

- 社会が必要とする職業観・勤労観を醸成し、生涯を通じた持続的な就業力を育成するために、キャリア啓発を目的とした科目を配置する。

教育方法

- ・学生が自らの学修目的にあわせて各科目の性格やその科目の開講時期（配当セメスター）を考慮しながら系統的に履修できるよう科目（講義・演習・講読・実技・実験・実習等）を開設する。
- ・全ての科目は、講義概要・到達目標・講義方法・授業評価の方法・授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。

学修成果の評価

- ・学修成果の有無やその内容を評価するために、科目の特性に応じて、おおよそ次の4種類の方法のうちの一つまたは複数を合わせて評価を行う。
 - ① 筆答試験による評価
 - ② レポート試験による評価
 - ③ 実技試験による評価
 - ④ 授業への取組状況や小テストなど、担当者が設定する方法による評価

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表
<https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen>）

（概要）

【入学者受入れの方針】

法学部では、日本国憲法の理念を基礎に、法学と政治学の教育・研究を通じて、広い教養と専門的な知識をもって主体的に行動し、鋭い人権感覚と正義感のもとに自ら発見した問題を社会と連携して解決できる、自立的な市民の育成を目指している。

そのため、次のような人が入学することを求めている。

1. 現代社会に生起する諸問題に広く関心を有するとともに、その解決に取り組む意欲を有する人
2. 問題を論理的に分析する能力や、自らの意見を論理的に表明する能力を有する人
3. 自ら問題を発見し、それについて自ら考え、行動する能力を有する人

については、高等学校等での学習では、国語や英語の学習を通して論理的思考力を養うとともに、他者の考えを理解し自らの考えを表明する力を鍛えること、歴史などの社会科科目の学習を通して現代社会に対する問題意識を高めることを望みむ。

学部等名：理工学部

教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公表
<https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen>）

（概要）

【理工学部の教育理念・目的】

建学の精神に基づいて、科学と人間の調和を重視し、理学と工学における基礎から応用にいたるまでの広範な教育・研究を通じて技術の高度化に対し貢献できる高い倫

理観を持った科学技術者を育成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表
<https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen>）

（概要）

【卒業認定・学位授与の方針〔学士（理学・工学）】】

理工学部の「教育理念・目的」を達成していくために、すべての学生一人ひとりに必要と考える、獲得すべき基本的な資質、学位授与に必要とされる単位数及び単位認定の方法を次に掲げる。

理工学部の学生に保証する基本的な資質・能力

建学の精神

- ・仏教、ことに浄土真宗に根ざす建学の精神の意味を深く理解している。
- ・建学の精神に基づいて、豊かな人間性と高い倫理観をそなえ、社会的責務に対する自覚を持っている。

知識・理解

- ・科学技術の進歩に対応できる専門分野の基礎から応用にいたる知識を身につけている。
- ・英語についての基本的な知識を持ち、英語と日本語の基本的な成り立ちや機能の違いを理解している。
- ・幅広く社会全体を見渡すために必要な知識や教養を身につけている。

思考・判断

- ・科学技術が自然や社会に対してどのような影響力を持っているかをよく理解し、グローバルな視点から自律的にまた論理的に判断することができる。
- ・基本的な論理的思考能力を持ち、外国の文化や事情について柔軟かつ公正な思考、判断ができる。
- ・論理的能力・問題解決力を身につけている。

興味・関心

- ・問題を解決するために必要となる専門的知識を自ら進んで修得し、時代の変化や社会の要請に合致した学習を継続的に行うことができる。
- ・広く日本を取り巻く国際情勢や文化に対する興味を持ち、国際的な視野から幅広い知識を身につけている。

態度

- ・高い倫理性をもって、専門的知識と技術を総合的に活用することができる。
- ・世界的な視野をもって社会が直面するさまざまな課題に主体的・積極的に対応することができる。
- ・日本語だけでなく英語を通じて、外国からの情報を得、文化を理解吸収しようとする姿勢を持つ。

技能・表現

- ・科学技術の進歩に対応できる基礎から応用にいたる専門の技術を身につけている。
- ・知的生産の技術を身につけている。
- ・国際化時代に対応できる英語で読む・書く・聴く・話すという四技能の基礎的運用能力を持っている。

学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法

1. 学部に4年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。
2. 卒業認定を受けるためには、所定の124単位以上の単位数を必要とする。
3. 卒業認定を受けるためには、「特別研究論文（卒業論文）」を提出し、審査に合格しなければならない。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表
<https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen>）

（概要）

【教育課程編成・実施の方針】

理工学部の「教育理念・目的」、「卒業認定・学位授与の方針」に明示したすべての学生に必要な基本的な資質・能力が獲得できるよう、多数の教養教育科目及び固有科目から構成される、体系的かつ系統的な教育課程を編成する。また、学生一人ひとりが有する学修目標に柔軟に対応できるように学習環境の向上・学習支援態勢を整備する。

理工学部の教育内容

- ・仏教の思想と高い倫理性を養うための科目である「仏教の思想」（2科目）を必修科目として設置する。
- ・視野の広い技術者となるために必要な幅広い教養を身につけるため、教養教育科目を人文社会学系学部と共同で開講する。
- ・国際化に対応できる語学力を身につけるため、読む・書く・聞く・話すことを基礎とする英語科目を1年次から連続して開講し、その後、理工学部専任教員による科目においてより専門的かつ実践的な英語教育を展開する。
- ・固有科目を1年次から配置して、基礎から応用への体系的なカリキュラム体制とする。専門基礎科目においては、講義科目と演習を組み合わせ、知識を確実に身につけさせる。加えて、外部講師による最先端の科学に関する講義科目や「学外実習」等の企業現場や実地研修を行うインターンシップ型科目を専門の講義科目と併せて開講する。

教育方法

- ・学生が自らの学修目的にあわせて各科目の性格やその科目の開講時期（担当セメスター）を考慮しながら系統的に履修できるよう科目（講義・演習・講読・実技・実験・実習等）を開設する。
- ・全ての科目は、講義概要・到達目標・講義方法・授業評価の方法・授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。

学修成果の評価

<p>・学修成果の有無やその内容を評価するために、科目の特性に応じて、おおよそ次の4種類の方法のうちの一つまたは複数に合わせて評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 筆答試験による評価 ② レポート試験による評価 ③ 実技試験による評価 ④ 授業への取組状況や小テストなど、担当者が設定する方法による評価 <p>・「特別研究」の評価は、論文等の成果物の評価と口述試問評価によって行う。</p>
--

<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen）</p>
--

<p>（概要）</p> <p>【入学者受入れの方針】</p> <p>理工学部では、現代の自然科学を代表するキーワードである「情報」「システム」「エネルギー」「材料・物質」「環境」に対応し、人間と地球環境に調和した科学・技術の発展を支える6学科で構成されています。それぞれの学科において、最新の理学と工学を融合させることにより、新しい視点に立った学問の道を開き、時代の要請にかなわった先端技術の発展に寄与しうる人材の育成を目指している。</p> <p>そのため、次のような人が入学することを求めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 広い分野にわたり基礎学力に優れ、科学的センスを持っている人 2. 明確な目的意識と勉学意欲を持っている人 3. 知的好奇心や自然科学への関心を持っている人 <p>ついでに、高等学校等での学習では、科学技術を学ぶ上で不可欠な英語・数学・理科を中心に、理工学部で教育を受ける上で基本となる高校での教科を幅広くしっかりと勉学していることを望む。</p>
--

<p>学部等名　：社会学部</p>

<p>教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen）</p>

<p>（概要）</p> <p>【社会学部の教育理念・目的】</p> <p>建学の精神に基づいて、多様な価値が錯綜する現代において、人が営む共同体である「社会」のあり方を学び、人と人、人と組織や社会との関わり方やそこで発生する諸問題の分析・解決の視点と手法を身につけた人間を育成することを目的とする。</p>
--

<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen）</p>
--

<p>（概要）</p> <p>龍谷大学の教育理念・目的と各学部の教育理念・目的を踏まえ、学生が身につけるべき資質・能力の目標を明確化したうえで、何ができるようになるか、どのような学修成果をあげれば学位授与するのかという内容を具体的に明示し、かつ、社会の要請を踏まえ、卒業認定・学位授与の方針を策定している。社会学部の2019年度以降入学生に示している卒業認定・学位授与の方針は以下のとおりである。</p>
--

◎社会学科

【卒業認定・学位授与の方針〔学士（社会学）】】

社会学部の「教育理念・目的」に基づき、社会学科が示す資質・能力を身につけたことが客観的に確認され、かつ必要な在学期間と卒業要件単位数を満たした者に対して、教授会の議を経て「学士（社会学）」の学位を授与する。

社会学部 社会学科の学生に保証する基本的な資質・能力

①建学の精神の具現化

- ・建学の精神の意義について理解している。

②（③の基礎となる）「知識・技能」の修得

- ・外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけている。
- ・諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけている。
- ・広い視野から社会の諸問題を把握し、解決するための基礎的な知識・技能を身につけている。

③（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上

- ・外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解することができる。
- ・幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現することができる。
- ・社会の諸問題を論理的に分析し、解決の方向性を考え、それらを表現するための知識・能力を身につけている。
- ・また、社会が必要とする職業観・勤労観と生涯を通じた持続的な就業力を身につけている。

④主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上

- ・社会の諸問題に対する強い関心・興味をもち、持続可能な共生社会の実現に向けて、主体性をもって多様な人々と協働しながら取り組むことができる。

学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法

- ・学部にて4年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。
- ・卒業認定を受けるためには、所定の124単位以上の単位数を必要とする。
- ・卒業年次には、「卒業論文」を提出し、合格しなければならない。

◎コミュニティマネジメント学科

【卒業認定・学位授与の方針〔学士（社会学）】】

社会学部の「教育理念・目的」に基づき、コミュニティマネジメント学科が示す資質・能力を身につけたことが客観的に確認され、かつ必要な在学期間と卒業要件単位数を満たした者に対して、教授会の議を経て「学士（社会学）」の学位を授与する。

社会学部 コミュニティマネジメント学科の学生に保証する基本的な資質・能力

①建学の精神の具現化

- ・建学の精神の意義について理解している。

② (③の基礎となる)「知識・技能」の修得

- ・外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけている。
- ・諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけている。
- ・まちづくり、心身の健康づくり、ネットワークづくりを行うための、調査・分析・企画・実践に関する基礎的な知識・技能を身につけている。

③ (④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)」の発展・向上

- ・外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解することができる。
- ・幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現することができる。
- ・地域社会が抱える諸問題に対して、多角的・創造的に思考・判断することができる。理論と実践を架橋することができる。
- ・また、社会が必要とする職業観・勤労観と生涯を通じた持続的な就業力を身につけている。

④主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上

- ・国際社会や地域社会の「現場」に興味・関心をもち、問題解決に向けて、他者との協働を重視しながら主体的に取り組むことができる。

学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法

- ・学部にて4年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。
- ・卒業認定を受けるためには、所定の124単位以上の単位数を必要とする。
- ・卒業年次には、「卒業研究」を提出し、合格しなければならない。

◎現代福祉学科

【卒業認定・学位授与の方針【学士(社会福祉学)】】

社会学部の「教育理念・目的」に基づき、現代福祉学科が示す資質・能力を身につけたことが客観的に確認され、かつ必要な在学期間と卒業要件単位数を満たした者に対して、教授会の議を経て「学士(社会福祉学)」の学位を授与する。

社会学部 現代福祉学科の学生に保証する基本的な資質・能力

①建学の精神の具現化

- ・建学の精神の意義について理解している。

② (③の基礎となる)「知識・技能」の修得 ・外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけている。

- ・諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけている。
- ・社会福祉に関する問題を総合的に捉え、原理、法制度、政策等を理解し、当事者

の視点に立った地域課題の解決策を構築するための基礎的な知識・技能を身につけている。

③ (④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)」の発展・向上

- ・外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解することができる。
- ・幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現することができる。
- ・社会の諸問題の解決に必要な論理的思考力を備え、当事者の視点に立った地域課題の解決に必要なネットワーク形成やコーディネートを見出す判断力を持ち、それらを実行できる知識・技能を身につけている。
- ・また、社会が必要とする職業観・勤労観と生涯を通じた持続的な就業力を身につけている。

④主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上

- ・多様な価値を尊重しながら、国内外の社会問題への関心を持ち、主体性を持って社会を変革しようとする行動を取ることができる。

学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法

- ・学部にて4年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。
- ・卒業認定を受けるためには、所定の124単位以上の単位数を必要とする。
- ・卒業年次には、「卒業研究」を提出し、合格しなければならない。

教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法:大学ホームページにて公表
<https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen>)

(概要)

◎社会学科

【教育課程編成・実施の方針】

社会学部の「教育理念・目的」、「卒業認定・学位授与の方針」に明示したすべての学生に必要な基本的な資質・能力が獲得できるよう、多数の教養教育科目及び専攻科目から構成される、体系的かつ系統的な教育課程を編成・展開する。また、学生一人ひとりが有する学習目標に柔軟に対応できるように学習環境・支援体制を整備する。

社会学部 社会学科の教育内容

①建学の精神の具現化

- ・建学の精神の意義について理解するために、1年次配当(第1・第2セメスター配当)の「仏教の思想」科目(「仏教の思想A」・「仏教の思想B」)を全学必修科目として開講する。

②(③の基礎となる)「知識・技能」の修得

- ・外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、1年次配当(第1・第2セメスター配当)の言語科目(英語および英語以外の複数の外国語科目)を開講する。
- ・諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、1年次配当(第1・第2セメスター配当)の教養科目(人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポ

ーツ科学系)を開講し、基幹科目を設置する。

- ・広い視野から社会の諸問題を把握し、解決するための基礎的な知識・技能を身につけるために、1～2年次を中心に社会調査の手法、情報処理及び文書作成に関する基礎的な実習・演習系科目を必修科目として開講する。

③ (④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)の発展・向上

- ・外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解する能力を身につけるために、2年次配当(第3・第4セメスター配当)の言語科目(英語および英語以外の複数の外国語科目)を開講する。
- ・幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、2年次配当(第3・第4セメスター配当)の教養科目(人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系)を開講する。
- ・社会の諸問題を論理的に分析し、解決の方向性を考え、それらを表現するための知識・能力を身につけるために、2～3年次を中心に、学科専門科目をはじめ、調査手法、情報処理及び文書作成に関する発展的な実習・演習系科目を開講する。
- ・また、社会が必要とする職業観・勤労観を醸成し、生涯を通じた持続的な就業力を育成するために、「キャリア啓発科目」と「キャリア形成科目」を開講する。

④主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上

- ・社会の諸問題に対する強い関心・興味をもち、持続可能な共生社会の実現に向けて、主体性をもって多様な人々と協働しながら取り組むことができるために、3～4年次においてゼミナールを中心とする演習科目「社会学演習ⅠA～ⅡB」及び卒業論文を必修科目として開講する。

教育方法

- ・学生が自らの学修目的にあわせて各科目の性格やその科目の開講時期(配当セメスター)を考慮しながら系統的に履修できるよう科目(講義・演習・講読・実技・実験・実習等)を開講する。
- ・全ての科目は、講義概要・到達目標・講義方法・授業評価の方法・授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。

学修成果の評価

- ・学修成果の有無やその内容を評価するために、科目の特性に応じて、おおよそ次の4種類のうちのひとつまたは複数を合わせて評価を行う。

①筆答試験による評価

②レポート試験による評価

③実技試験による評価

④授業への取組状況や小テストなど、担当者が設定する方法による評価

- ・卒業論文の評価は、「論文」及び「口述試問」の評価によって行う。

◎コミュニティマネジメント学科

【教育課程編成・実施の方針】

社会学部の「教育理念・目的」、「卒業認定・学位授与の方針」に明示したすべての学生に必要な基本的な資質・能力が獲得できるよう、多数の教養教育科目及び専攻科目から構成される、体系的かつ系統的な教育課程を編成・展開する。また、学生一人ひとりが有する学習目標に柔軟に対応できるように学習環境・支援体制を整備する。

社会学部 コミュニティマネジメント学科の教育内容

①建学の精神の具現化

- ・建学の精神の意義について理解するために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想A」・「仏教の思想B」）を全学必修科目として開講する。

② (③の基礎となる)「知識・技能」の修得

- ・外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。
- ・諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講し、基幹科目を設置する。
- ・まちづくり、心身の健康づくり、ネットワークづくりを行うための、調査・分析・企画・実践に関する基礎的な知識・技能を身につけるために、1～2年次を中心にマネジメントの手法、情報処理及び文書作成に関する基礎的な実習・演習系科目を必修科目として開講する。

③ (④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上

- ・外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。
- ・幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講する。
- ・地域社会が抱える諸問題に対して、多角的・創造的に思考・判断することができ、理論と実践を架橋することができるようになるために、2～3年次を中心に、学科専門科目をはじめ、社会のさまざまな現場において実践するための実習科目を開講する。
- ・また、社会が必要とする職業観・勤労観を醸成し、生涯を通じた持続的な就業力を育成するために、「キャリア啓発科目」と「キャリア形成科目」を開設する。

④主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上

- ・国際社会や地域社会の「現場」に興味・関心をもち、問題解決に向けて、他者との協働を重視しながら主体的に取り組むことができるために、3～4年次において演習科目である「参画ゼミナールⅠ～Ⅳ」及び卒業研究を必修科目として開講する。

教育方法

- ・学生が自らの学修目的にあわせて各科目の性格やその科目の開講時期（配当セメスター）を考慮しながら系統的に履修できるよう科目（講義・演習・講読・実技・実験・実習等）を開設する。

- ・全ての科目は、講義概要・到達目標・講義方法・授業評価の方法・授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。

学修成果の評価

- ・学修成果の有無やその内容を評価するために、科目の特性に応じて、おおよそ次の4種類の方法のうちの一つまたは複数を合わせて評価を行う。
 - ① 筆答試験による評価
 - ② レポート試験による評価
 - ③ 実技試験による評価
 - ④ 授業への取組状況や小テストなど、担当者が設定する方法による評価
- ・卒業研究の評価は、「論文」または「制作及び副論文」の評価によって行う。

◎現代福祉学科

【教育課程編成・実施の方針】

社会学部の「教育理念・目的」、「卒業認定・学位授与の方針」に明示したすべての学生に必要な基本的な資質・能力が獲得できるよう、多数の教養教育科目及び専攻科目から構成される、体系的かつ系統的な教育課程を編成・展開する。また、学生一人ひとりが有する学習目標に柔軟に対応できるように学習環境・支援体制を整備する。

社会学部 現代福祉学科の教育内容

①建学の精神の具現化

- ・建学の精神の意義について理解するために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想 A」・「仏教の思想 B」）を全学必修科目として開講する。

②（③の基礎となる）「知識・技能」の修得

- ・外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。
- ・諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講し、基幹科目を設置する。
- ・社会福祉に関する問題を総合的に捉え、原理、法制度、政策等を理解し、当事者の視点に立った地域課題の解決策を構築するために、1年次を中心に社会福祉、社会イノベーション、ソーシャルワークに関する基盤となる科目を必修科目として開講する。

③（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上

- ・外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。
- ・幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講する。
- ・社会の諸問題の解決に必要な論理的思考力を備え、当事者の視点に立った地域課題の解決に必要なネットワーク形成やコーディネートを見出す判断力を持ち、

それらを実行できる知識・技能を身につけるために、2～3年次を中心に専門の講義・演習科目及び様々な社会福祉援助技術を学ぶための現場実習科目を開講する。

- ・また、社会が必要とする職業観・勤労観を醸成し、生涯を通じた持続的な就業力を育成するために、「キャリア啓発科目」と「キャリア形成科目」を開講する。

④主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上

- ・多様な価値を尊重しながら、国内外の社会問題への関心を持ち、主体性を持って社会を変革しようとする行動を取ることができるために、3～4年次において演習科目である「現代福祉学演習Ⅰ・Ⅱ」及び卒業研究を必修科目として開講する。

教育方法

- ・学生が自らの学修目的にあわせて各科目の性格やその科目の開講時期（配当 Semester）を考慮しながら系統的に履修できるよう科目（講義・演習・講読・実技・実験・実習等）を開講する。
- ・全ての科目は、講義概要・到達目標・講義方法・授業評価の方法・授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。

学修成果の評価

- ・学修成果の有無やその内容を評価するために、科目の特性に応じて、おおよそ次の4種類の方法のうちの一つまたは複数を合わせて評価を行う。

- ① 筆答試験による評価
 - ② レポート試験による評価
 - ③ 実技試験による評価
 - ④ 授業への取組状況や小テストなど、担当者が設定する方法による評価
- ・卒業研究の評価は、「論文」の評価によって行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表
<https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen>）

（概要）

【入学者受入れの方針】

社会学部では、社会を単なる人と人との結びつきと捉えるだけでなく、社会と環境との結びつきをも重視する必要があると考え、社会や地域における多様な関係を尊重する教育理念を掲げている。このような理念のもと、IT化、グローバル化、少子高齢化など急速な社会変化によって生じる現代社会の諸課題に対して、創造的に対応できる知識や専門的能力、問題解決能力を持った人の育成をめざしている。

そのため、次のような人が入学することを求めている。

1. 現代社会に関して幅広く関心を持ち、社会学部の教育理念を深く理解し、明確な目的意識をもって勉学に取り組む人
2. 社会や地域に生起する諸問題を分析し、その解決を図る方法について考察する能力を持った人（社会学科・コミュニティマネジメント学科）
3. 社会福祉に関心を持ち、社会福祉専門職としての支援や、地域・企業・学校などさまざまな領域での社会貢献活動に意欲をもつ人（現代福祉学科）

については、高等学校等での学習では、さまざまなコミュニケーションを行う上での

基本ツールとなる国語、英語、加えて、社会や歴史に関する科目を中心として、社会や身の回りのさまざまな事象に興味・関心が持てるよう、すべての教科を幅広くしっかりと勉強することを望む。

学部等名：政策学部

教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公表
<https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen>）

（概要）

【政策学部の教育理念・目的】

建学の精神に基づいて、共生の哲学を基礎に、政策学の教育と研究を通じて広い教養と専門的な知識を身につけ、社会の持続可能な発展のために主体的に行動するとともに、自ら発見した問題を社会と連携して解決できる、高い公共性と市民性を持つ自立的な人材を育成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表
<https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen>）

（概要）

【卒業認定・学位授与の方針〔学士（政策学）〕】

政策学部の「教育理念・目的」に基づき、教養科目及び専攻科目の履修を通じて、以下の基本的資質・能力を備えるに至った学生に学士（政策学）の学位を授与する。

政策学部の学生に保証する基本的な資質・能力

○教養教育科目により保証する資質・能力 ●専攻科目により保証する資質・能力

①建学の精神の具現化

○建学の精神の意義について理解している。

②（③の基礎となる）「知識・技能」の修得

○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけている。

○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけている。

●政策学及び関連する学問領域の幅広い専門的知識を深く理解している。

●人類的及び地域的課題を政策学の知識を用いて分析し、課題の本質を適切に把握することができる。

●政策的課題を他者と協力して達成するためのコミュニケーション能力を身につけている。

●政策学に関する知的情報の受信、選択、分析、発信を行うための、言語や情報処理を含めた基本的なリテラシーを身につけている。

③（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上

○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解することができる。

- 幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現することができる。
- 持続可能な発展の観点から、人類的及び地域的課題について、論理的かつ多角的に思考・判断することができる。
- 政策的課題の解決のための適切な政策を立案・実施する基本的な能力を身につけている。
- 政策的課題に関する調査の報告や情報を活用することができる。

④主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上

- 人類的及び地域的課題に対して、自己に関連づけながら、主体的かつ具体的な課題を設定することができる。
- 人類的及び地域的課題に対して、多様性や異文化を受容しつつ、他者と協働で解決することができる。
- 政策学の学びや他者との協働を通じて、自己を客観視し自律的に学習し続ける態度を身につけている。
- 政策学の学びや他者との協働を通じて、社会の要請に応えうる就業力を身につけている。

学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法

1. 学部に4年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。
2. 卒業認定を受けるためには、所定の124単位以上の単位数を必要とする。
3. 学部共通コース所属学生は、所属コースの修了要件を満たすこと。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表
<https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen>）

（概要）

【教育課程編成・実施の方針】

政策学部の「教育理念・目的」、「卒業認定・学位授与の方針」に明示したすべての学生に必要な基本的な資質・能力が獲得できるよう、教養教育科目及び専攻科目から構成される、体系的かつ系統的な教育課程を編成・展開する。また、学生一人ひとりが有する学習目標に柔軟に対応が可能となるよう学習環境・支援体制を整備する。

政策学部の教育内容

○教養教育科目にかかる教育内容 ●専攻科目にかかる教育内容

①建学の精神の具現化

○建学の精神の意義について理解するために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想 A」・「仏教の思想 B」）を全学必修科目として開講する。

②（③の基礎となる）「知識・技能」の修得

○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。

○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、1年次配当（第1・

第2 Semester 担当) の教養科目 (人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系) を開講し、基幹科目を設置する。

- 政策学及び関連する学問領域の幅広い専門的知識を深く理解するための基礎科目を、必修科目・履修指導科目・コース必修科目として 3 Semester までに配置する。
- 人類的及び地域的課題を適切に分析し本質を把握する力を養うために、グローバル・シチズンシップ・エデュケーション A~D など、グローバルな視点を重視した専攻基本科目を配置する。
- 基礎演習 I・II やコミュニケーション・ワークショップ演習など、他者と協働するためのコミュニケーション能力の向上を重視した専攻導入科目を配置する。
- 政策学に必要な研究技法、言語、情報処理などの基本的なリテラシーを身につけるための科目を設置する。

③ (④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)の発展・向上

- 外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解する能力を身につけるために、2 年次担当 (第 3・第 4 Semester 担当) の言語科目 (英語および英語以外の複数の外国語科目) を開講する。
- 幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、2 年次担当 (第 3・第 4 Semester 担当) の教養科目 (人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系) を開講する。
- 持続可能な発展の観点から、人類的及び地域的課題について、論理的かつ多角的に思考・判断することができる力を養う専攻コース科目を配置する。
- 政策的課題の解決のための適切な政策を立案・実施する基本的な能力を身につけるための専攻コース科目を配置する。
- 政策的課題に関する調査の報告や情報を活用するための専攻コース科目を配置する。

④ 主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上

- 人類的及び地域的課題に対して、自己に関連づけながら、主体的かつ具体的な課題を設定する力を養うために、演習 I・II などの少人数型専門演習科目を配置する。
- 人類的及び地域的課題に対して、多様性や異文化を受容しつつ、他者と協働で解決する力を養うために、政策実践・探究演習 IA・IIA (国内・海外) などの PBL 型専門演習科目を配置する。
- 政策学の学びや他者との協働を通じて、自己を客観視し自律的に学習し続ける態度を身につけるために、政策学研究発展演習 I・II など、大学院への接続も視野に入れた専門演習科目を配置する。
- 社会が要請する就業力を身につけるために、企業の CSR 実践演習などのキャリア系専門演習科目を配置する。

教育方法

学生が自らの学修目的にあわせて各科目の性格やその科目の開講時期 (担当 Semester) を考慮しながら系統的に履修できるよう科目 (講義・演習・講読・実技・実験・実習等) を開設する。

全ての科目は、講義概要・到達目標・講義方法・授業評価の方法・授業計画等を掲載

したシラバスに沿って実施する。

学修成果の評価

学修成果の有無やその内容を評価するために、科目の特性に応じて、おおよそ次の4種類の方法のうちの一つまたは複数を合わせて評価を行う。

- ① 筆答試験による評価
- ② レポート試験による評価
- ③ 実技試験による評価
- ④ 授業への取組状況や小テストなど、担当者が設定する方法による評価

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表

<https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen>)

(概要)

【入学者受入れの方針】

政策学部では、幅広い教養と専門的な知識を身につけて社会の持続可能な発展のために行動し、協働型社会を担うために必要な公共性と市民性を持ち、国際的な視点から政策を提案し実行する能力を備えた人の育成をめざしている。

そのため、次のような人が入学することを求めている。

1. 人文・社会・自然科学の領域について幅広い関心を持ち、総合的な観点から現代社会の課題解決に取り組む意欲を持っている人
2. 国際的な視点から都市問題、環境問題などの地域社会の課題を解決することに関心を持っている人
3. 協働型社会を支える公共性と市民性を学ぶ意欲を持ち、政策立案と実施能力を備えた専門的職業人となるために勉学に取り組む人

については、高等学校等での学習では、コミュニケーション能力と論理的思考力を養い、国内外の社会問題に関心を持てるように、幅広く勉強することを望む。

学部等名：国際学部

教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公表

<https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen>)

(概要)

【国際学部の教育理念・目的】

建学の精神に基づいて、異文化への理解と敬意を深めるとともに、自文化についての発信力を養い、グローバル化が加速する時代において、柔軟な思考と批判的精神をもって対応できるコミュニケーション能力と問題解決能力を備えた人間を育成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表

<https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen>)

(概要)

◎国際文化学科

【卒業認定・学位授与の方針〔学士（国際文化学）】】

国際学部の「教育理念・目的」を達成していくために、すべての学生一人ひとりに必要と考える、獲得すべき基本的な資質・能力、学位授与に必要なとされる単位数及び卒業認定の方法を次に掲げる。

国際学部 国際文化学科の学生に保証する基本的な資質・能力

○教養教育科目により保証する資質・能力 ●専攻科目により保証する資質・能力

①建学の精神の具現化

○建学の精神の意義について理解している。

② (③の基礎となる)「知識・技能」の修得

○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけている。

- 日本を含む世界の様々な国、地域、宗教等における文化の多様な側面を理解することができる。
- 日本語および外国語で書かれた文献資料等を調査し、かつ、批判的に読み解くことができる。
- 英語をはじめ、任意の外国語をその文化的背景も含めて学び、かつ、実践的に活用することができる。
- 「世界と日本をつなぐ」上で求められる、言語・人文・社会科学にわたる幅広い教養を身につけている。
- 社会が必要とする職業観・勤労観と生涯を通じた持続的な就業力を身につけている。

③ (④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)の発展・向上

○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現することができる。

- フィールド調査など実践的な授業や活動を通じて、異なる文化間に生じる諸問題を発見し、解決する上で役立つ実践的な経験を持っている。
- 異なる文化の独自性を尊重できると同時に、自らが所属する文化の特質や意義を認識している。
- 異なる文化間に内在する課題を発見し、互恵的・建設的な解決策を論理的に導く能力を持っている。
- レポートや卒業論文など、一定の書式に沿って自己の主張をまとめることができる。

④主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上

- 世界の様々な国、地域における言語や文化に対する幅広い関心と、飽くなく探究心を持っている。
- 国際的な諸問題と深く関わる世界三大宗教(仏教・キリスト教・イスラーム教)に対する関心を持っている。
- 日本社会や日本文化の歴史的な蓄積を理解した上で、現代的な諸課題に対する関心を持っている。

- 複雑化、多様化する国際社会の状況を踏まえ、一面的に物事を捉えない視座を持っている。
- 自らの所属する文化を常に相対的に眺め、様々な文化を優劣関係で捉えない寛容な精神を持っている。
- 常に他者の立場に配慮しながら、主体的に物事に対して思考・判断・行動することができる。

学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法

1. 学部に4年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。ただし、所定の科目を特別に優秀な成績で修得したと教授会が認めた者については、3年以上の在学で卒業を認定することができる。その取扱いについては、別にこれを定める。
2. 卒業認定を受けるためには、所定の124単位以上の単位数を必要とする。

◎グローバルスタディーズ学科

卒業認定・学位授与の方針【学士（グローバルスタディーズ）】

国際学部の「教育理念・目的」を達成していくために、すべての学生一人ひとりに必要と考える、獲得すべき基本的な資質・能力、学位授与に必要とされる単位数及び単位認定の方法を次に掲げる。

国際学部 グローバルスタディーズ学科の学生に保証する基本的な資質・能力

○教養教育科目により保証する資質・能力 ●専攻科目により保証する資質・能力

① 建学の精神の具現化

○建学の精神の意義について理解している。

② (③の基礎となる)「知識・技能」の修得

○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけている。

- グローバルな 이슈やコミュニケーションに関する知識をもち、日本語と英語を適切に運用できるとともに、世界の諸事象を複眼的に分析するための知識と方法を修得している。
- 社会が必要とする職業観・勤労観と生涯を通じた持続的な就業力を身につけている。

③ (④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)の発展・向上

○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現することができる。

- 論理的であると同時に、柔軟な批判的精神をもち、自己の置かれた環境を、歴史的・社会的・地域的・国際的な観点から相対化し、固定観念に捉わられることなく考察することができる。

④ 主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上

- 揺るがない倫理観に基づき、多様な価値観を尊重し、チャレンジ精神と精神的な強さをもって国際的な舞台においてリーダーシップを発揮することができる。

学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法

1. 学部に 4 年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。ただし、所定の科目を特別に優秀な成績で修得したと教授会が認めた者については、3 年以上の在学で卒業を認定することができる。その取扱いについては、別にこれを定める。
2. 卒業認定を受けるためには、所定の 124 単位以上の単位数を必要とする。
3. TOEIC®730 点、TOEFL® (550-PBT、80-iBT)、IELTS™6.0 のいずれかを取得することを必要とする。
4. 1 セメスター以上の留学を必要とする。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表
<https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen>）

（概要）

◎国際文化学科 【教育課程編成・実施の方針】

国際学部の教育理念・目的および卒業認定・学位授与の方針に明示した「基本的な資質・能力」をすべての学生が獲得できるように、教養教育科目および専攻科目から構成される、体系的かつ系統的な教育課程を編成・展開する。また、学生一人ひとりが有する学習目標に柔軟に対応できるように学習環境・支援体制を整備する。併せて、国際学部の教育理念・目的を実現するために、常に文化の多様性と複雑さに接することができる環境を整備する。

国際学部 国際文化学科の教育内容

○教養教育科目にかかる教育内容 ●専攻科目にかかる教育内容

①建学の精神の具現化

- 建学の精神の意義について理解するために、1 年次配当（第 1・第 2 セメスター配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想 A」・「仏教の思想 B」）を全学必修科目として開講する。

② (③の基礎となる)「知識・技能」の修得

- 諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、1 年次配当（第 1・第 2 セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講し、基幹科目を設置する。
- 外国語運用能力を涵養するため、1 年次には週 5 回、2 年次には週 3 回の「学科外国語科目」（英語・中国語・韓国語・フランス語から選択）を開講する。
- 2 年次から「学科専攻科目」として、学科外国語科目で提供した外国語に加えて、さらに多様な外国語科目（ペルシア語、トルコ語、アラビア語、スペイン語、ドイツ語、ロシア語、ポルトガル語）を配置する。
- 大学での学びの基礎を確立するため、「基礎演習 A・B」（各 2 単位）を 1 年次に展開する。
- 今後の学びにとって重要な学修スキルを身につけるため「調査分析の基礎 A・B」を設ける。
- 社会が必要とする職業観・勤労観を醸成し、生涯を通じた持続的な就業力を育成するため、「キャリア啓発科目」と「キャリア形成科目」を開講する。

③ (④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)の発展・向上

- 幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、2年次配当(第3・第4セメスター配当)の教養科目(人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系)を開講する。
- 「世界を学び、日本を知る」という学科の理念に基づき、また、国内外の多様な文化を結ぶファシリテーターを育成するため、『多文化共生』、『世界と日本』、『芸術・メディア』の3コースを設ける。
- 各コースでは、学問領域を系統的に学修できるよう、入門的科目等の基礎科目、専攻科目をバランスよく配置してカリキュラムを展開する。
- 学生は、学科専攻科目46単位のうち34単位をコース提供科目から取得する。
- 3年次からは「演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」(「演習Ⅰ」は登録必修。各2単位)を開講し、各自の興味あるテーマについての学びを深める。
- 4年次に「卒業論文」(6単位)を履修し、論文としての結実を目指す。これにより、一貫して専任教員の下で少人数教育を受けることを可能とする。

④主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上

- 留学生を積極的に受け入れ、また、充実したサポート体制の下に学生の海外留学(交換留学および私費留学)を推奨し、語学力向上とともに、授業内外での異文化理解の促進、異文化交流機会の拡充に努める。
- 他受講者や社会との関わりを持つことのできる国際または文化をテーマとした実践的な取り組みの機会(国際文化実践プログラム)を提供する。

教育方法

- ・学生が、自らの学修目的や進路希望に応じて各科目の性格や開講時期(配当セメスター)を考慮しながら系統的に履修できるよう、多様な授業形態(講義・演習・実習など)により科目を開設する。
- ・全ての科目は、講義概要、到達目標、講義方法、授業評価の方法、授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。

学修成果の評価

- ・学修成果の有無やその内容・水準等を評価するため、科目の特性に応じておおよそ次の4種類の方法のいずれか、または複数を合わせて評価する。
 - ①筆答試験による評価
 - ②レポート試験による評価
 - ③実技試験による評価
 - ④授業への取組状況や小テストなど、担当者が設定する方法による評価

**◎グローバルスタディーズ学科
【教育課程編成・実施の方針】**

国際学部の教育理念・目的および卒業認定・学位授与の方針に明示した「基本的な資質・能力」をすべての学生が獲得できるよう、教養教育科目および専攻科目から構成される、体系的かつ系統的な教育課程を編成・展開する。また、学生一人ひとりが有する学習目標に柔軟に対応できるよう学習環境・支援体制を整備する。併せて、国際

学部の教育理念・目的を実現するために、常に文化の多様性と複雑さに接することができる環境を整備する。

国際学部 グローバルスタディーズ学科の教育内容

○教養教育科目にかかる教育内容 ●専攻科目にかかる教育内容

①建学の精神の具現化

○建学の精神の意義について理解するために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想 A」・「仏教の思想 B」）を全学 必修科目として開講する。

② (③の基礎となる) 「知識・技能」の修得

○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講し、基幹科目を設置する。

●「グローバルスタディーズ」という学問領域を学ぶために必要となる基礎的な知識を修得するため、「グローバルスタディーズ A～C」を開講する。

●英語の基礎スキルと実用的スキルを修得するため、1年次に英語集中プログラム(PEPプログラム)を配置する。

●情報収集・分析・発信能力を身につけるため「ITリテラシーA・B」を開講する。

●大学生活において必要な基礎スキルの修得のために、1年次必修科目として「リサーチ方法論 A・B」を開講する。

●社会が必要とする職業観・勤労観を醸成し、生涯を通じた持続的な就業力を育成するため、「キャリア啓発科目」を開講する。

③ (④の基盤となる) 「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上

○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講する。

●専門知識を複数の言語で理解し議論できる能力を養成するために、学科専攻科目のほとんどを英語のみ、または英語・日本語併用による講義として開講する。

●講義型科目は「グローバリゼーション」、「コミュニケーション」、「エシックス」の3つの領域に分類して配置し、世界の諸事象を総合的かつ実践的な知識にもとづき分析できる能力の向上を図る。

●また、学年進行に応じて、異なる2領域が重なる科目、さらに3領域が重なる総合的科目を重視するカリキュラムとする。これにより、低年次から複合的な視点での思考や分析に習熟できるようにする。

④主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上

●グローバルな舞台で活躍し、また国内外の国や地域を問わず通用する揺るがない倫理観を身につけるため、半年以上の長期留学を必修とする。

●社会が必要とする職業観・勤労観を醸成し、生涯を通じた持続的な就業力を育成するため、「キャリア形成科目」を開講する。

教育方法

- ・学生が、自らの学修目的や進路希望に応じて各科目の特性や開講時期（配当セメスター）を考慮しながら系統的に履修できるよう、多様な授業形態（講義・演習・実習など）により科目を開設する。
- ・全ての科目は、講義概要、到達目標、講義方法、授業評価の方法、授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。

学修成果の評価

- ・学修成果の有無やその内容・水準等を評価するため、科目の特性に応じておおよそ次の4種類の方法のいずれか、または複数を合わせて評価する。
 - ① 筆答試験による評価
 - ② レポート試験による評価
 - ③ 実技試験による評価
 - ④ 授業への取組状況や小テストなど、担当者が設定する方法による評価
- ・卒業論文の評価は、論文評価と口述試問評価によっておこなう。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表
<https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen>）

（概要）

【入学者受入れの方針】

国際学部では、異文化への理解を深めるとともに、自文化についての発信力を養い、グローバル化が加速する時代において、柔軟な思考と批判的精神をもって対応できるコミュニケーション能力、問題解決能力及び倫理観を備えた人間の育成をめざしている。

そのため、次のような人が入学することを求めている。

1. グローバル化が加速する時代の動向に強い関心と好奇心を有し、学部の教育理念を深く理解し、強い意欲をもって学んでいこうとする人
2. 異文化に対して寛容かつ柔軟に対応でき、国際的に貢献したいという明確な目的意識をもった人
3. 英語をはじめとする外国語の能力が高く、さらなる向上をめざす人

したがって、高等学校等での学習では、入学までに必要な基礎学力として、様々なコミュニケーションを行う上での基本ツールとなる英語、国語を中心として、国際学部で教育を受ける上で基本となる地理・歴史等、社会や文化に関連する科目を幅広く勉強し、併せて日頃から国内外の社会の動向に関心を持つことを望む。

学部等名：農学部

教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公表

<https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen>）

（概要）

龍谷大学の教育理念・目的である「建学の精神に基づき「真実を求め、真実に生き、真実を頭かにする」ことのできる人間を育成する。」を実現するため、各分野の独自性を活かしつつ、社会の要請等を踏まえ、以下のとおり農学部の教育理念・目的を掲げている。

【農学部の教育理念・目的】

建学の精神に基づいて、人類が直面する「食」と「農」に関する国内外の諸問題に対して真摯に向き合い、持続可能な社会の実現に貢献し、生命・資源・食料・経済に関わる諸問題に対して農学の立場から正しい判断ができる力を備えた人間を育成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表
<https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen>）

（概要）

【卒業認定・学位授与の方針〔学士（農学）】】

農学部の「教育理念・目的」に基づき、以下の基本的な資質・能力を備えるに至った学生に学士（農学）の学位を授与する。

農学部の学生に保証する基本的な資質・能力

○教養教育科目により保証する資質・能力 ●専攻科目により保証する資質・能力

①建学の精神の具現化

○建学の精神の意義について理解している。

②（③の基礎となる）「知識・技能」の修得

○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけている。

○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけている。

●農学の理論とその実践について説明できる。

●幅広い学問領域について基礎的な知識をもち、それぞれの領域がもつ見方について説明することができる。

●自ら発見した課題を論理的に分析し、自らの考えを文章で表現し、それをプレゼンテーション・ディスカッションできる。

●「食」と「農」に関する諸課題を解決できる適切な技能を身につけている。

③（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上

○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解することができる。

○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現することができる。

●「食」と「農」に関する諸現象を論理的に分析できる。

●基本的な論理的思考能力をもち、多角的な観点から柔軟かつ公正に思考し判断ができる。

●問題を発見し、課題を解決する能力を身につけている。

④主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上

●地球環境と国内外の農業の動向に対して常に興味・関心を示している。

●「食」と「農」をとりまく諸現象について、探究心をもって具体的な課題設定ができる。

●問題を解決するために必要となる専門的知識を自ら進んで修得し、時代の変化や社会の要請に合致した学習を継続的に行うことができる。

- 高い倫理性をもって、専門知識と技術を総合的に活用することができる。
- 世界的な視野をもって社会が直面するさまざまな課題に主体的・積極的に対応することができる。
- 多様な価値観を認めつつ、学びを通じて自己の認識を広げ、感性を磨くことができる。
- 社会が必要とする職業観・勤労観と生涯を通じた持続的な就業力を身に付けている。

学位授与に必要なとされる単位数及び卒業認定の方法

1. 学部に4年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。ただし、所定の科目を特別に優秀な成績で修得したと教授会が認めた者については、3年以上の在学で卒業を認定することができる。その取扱いについては、別にこれを定める。
2. 卒業認定を受けるためには、所定の124単位以上の単位数を修得する。
3. 卒業認定を受けるためには、「特別研究」を行い合格しなければならない。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表
<https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen>）

（概要）

◎植物生命科学科

【教育課程編成・実施の方針】

未来の持続可能な農業を構築するために、文理融合型の人材を育成する必要がある。そこで、農学部「教育理念・目的」、「卒業認定・学位授与の方針」に基づいて、「農学概論」を核に、「演習」と「講義」、「実習」を組み合わせた教育課程を編成・展開し「食」と「農」を理解できる基礎知識基盤を構築する。

農学部 植物生命科学科の教育内容

○教養教育科目にかかる教育内容 ●専攻科目にかかる教育内容

①建学の精神の具現化

- 建学の精神の意義について理解するために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想A」・「仏教の思想B」）を全学必修科目として開講する。
- 「仏教の思想」と農学研究を架橋するために初年次の必修科目として「食と農の倫理」（2単位）を設置する。

②（③の基礎となる）「知識・技能」の修得

- 外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。
- 諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講し、基幹科目を設置する。
- 分野が広範にわたる農学を総合的に理解するため「農学概論」（2単位）を必修科目として設置する。
- 情報リテラシー等を学ぶ「入門ゼミ」（2単位）を全員履修科目として設置する。

- 「農学概論」を核に、「演習」と「講義」、「実習」を組み合わせた教育課程を編成・展開し「食」と「農」を理解できる基礎知識基盤を構築する。
- 学科横断型カリキュラムにより文理融合型の知識基盤を構築する。低年次において他学科で開講される科目の履修を要件化し、理系・文系の垣根を越えた教育体系とする。
- 農業の基礎となる農作物の生育や変異の仕組み、すなわち、植物の生理現象や変異と進化、その生育における外的要因の影響を総合的に理解するために、植物生理学や遺伝学をはじめとする生命科学領域の基礎科目を学ぶ。

③ (④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)」の発展・向上

- 外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解する能力を身につけるために、2年次配当(第3・第4セメスター配当)の言語科目(英語および英語以外の複数の外国語科目)を開講する。
- 幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、2年次配当(第3・第4セメスター配当)の教養科目(人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系)を開講する。
- 農業に関するトータルプロセスを実体験できるプログラム「食の循環実習Ⅰ・Ⅱ」(各2単位)を必修科目として設置する。この科目では、講義・演習と実験・実習の組み合わせにより「食」と「農」を総合的に理解させ、かつ学科横断型科目として実施する事で学科の枠組みを超えた多面的な学びを達成し、加えて学生交流を誘起する。
- 農業の基礎となる農作物の生育や変異の仕組み、すなわち、植物の生理現象や変異と進化、その生育における外的要因の影響を総合的に理解するために、植物生理学や遺伝学をはじめとする、生命科学領域の応用科目を学ぶ。

④主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上

- 英語で書かれた文献の講読を通して最新の海外の研究動向を把握する。
- 実験・実習を通じて実際の植物の生理や遺伝現象の観察を行う。さらに、講義と実験・実習で身につけた知識と技術を活用して、自ら学び研究する総合演習や特別研究を行う。
- 社会が必要とする職業観・勤労観を醸成し、生涯を通じた持続的な就業力を育成するために、「キャリア啓発科目」と「キャリア形成科目」を開設する。

教育方法

- ・学生が自らの学修目的にあわせて各科目の性格やその科目の開講時期(配当セメスター)を考慮しながら系統的に履修できるよう科目(講義・演習・講読・実技・実験・実習等)を開設する。
- ・全ての科目は、講義概要・到達目標・講義方法・授業評価の方法・授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。

学修成果の評価

- ・学修成果の有無やその内容を評価するために、科目の特性に応じて、おおよそ次の4種類の方法のうちの一つまたは複数に合わせて評価を行う。
 - ① 筆答試験による評価
 - ② レポート試験による評価
 - ③ 実技試験による評価

- ④ 授業への取組状況や小テストなど、担当者が設定する方法による評価・卒業論文（特別研究）の評価は、論文及び発表評価によって行う。

◎資源生物科学科

【教育課程編成・実施の方針】

未来の持続可能な農業を構築するために、文理融合型の人材を育成する必要がある。そこで、農学部「教育理念・目的」、「卒業認定・学位授与の方針」に基づいて、「農学概論」を核に、「演習」と「講義」、「実習」を組み合わせた教育課程を編成・展開し「食」と「農」を理解できる基礎知識基盤を構築する。

農学部資源生物科学科の教育内容

○教養教育科目にかかる教育内容 ●専攻科目にかかる教育内容

①建学の精神の具現化

- 建学の精神の意義について理解するために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想A」・「仏教の思想B」）を全学必修科目として開講する。
- 「仏教の思想」と農学研究を架橋するために初年次の必修科目として「食と農の倫理」（2単位）を設置する。

② (③の基礎となる)「知識・技能」の修得

- 外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。
- 諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講し、基幹科目を設置する。
- 分野が広範にわたる農学を総合的に理解するため「農学概論」（2単位）を必修科目として設置する。
- 情報リテラシー等を学ぶ「入門ゼミ」（2単位）を全員履修科目として設置する。
- 未来の持続可能な農業を構築するために、文理融合型の人材を育成する。農学部の「教育理念・目的」「学位授与の方針」に基づいて、「農学概論」を核に、「演習」と「講義」、「実習」を組み合わせた教育課程を編成・展開し「食」と「農」を理解できる基礎知識基盤を構築する。
- 学科横断型カリキュラムにより文理融合型の知識基盤を構築する。低年次において他学科で開講される科目の履修を要件化し、理系・文系の垣根を越えた教育体系とする。
- 「食の安全・安心」を支える農作物の生産、すなわち品種育成や作物多様性、土壌などの栽培環境の保全、農薬や肥料などが環境に与える影響などを実証的かつ総合的に理解するために、育種学や作物学をはじめとする、農業に直結する自然科学領域の基礎科目を学ぶ。

③ (④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上

- 外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解

する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。

○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講する。

●農業に関するトータルプロセスを実体験できるプログラム「食の循環実習Ⅰ・Ⅱ」（各2単位）を必修科目として設置する。この科目では、講義・演習と実験・実習の組み合わせにより「食」と「農」を総合的に理解させ、かつ学科横断型科目として実施する事で学科の枠組みを超えた多面的な学びを達成し、加えて学生交流を誘起する。

●「食の安全・安心」を支える農作物の生産、すなわち品種育成や作物多様性、土壌などの栽培環境の保全、農薬や肥料などが環境に与える影響などを実証的かつ総合的に理解するために、育種学や作物学をはじめとする、農業に直結する自然科学領域の応用科目を学ぶ。

④主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上

●英語で書かれた文献の講読を通して最新の海外の研究動向を把握する。

●実験・実習を通じて実際の植物の育成や栽培を行う。さらに、講義と実験・実習で身につけた知識と技術を活用して、自ら学び研究する総合演習や特別研究を行う。

●社会が必要とする職業観・勤労観を醸成し、生涯を通じた持続的な就業力を育成するために、「キャリア啓発科目」と「キャリア形成科目」を開設する。

教育方法

・学生が自らの学修目的にあわせて各科目の性格やその科目の開講時期（配当セメスター）を考慮しながら系統的に履修できるよう科目（講義・演習・講読・実技・実験・実習等）を開設する。

・全ての科目は、講義概要・到達目標・講義方法・授業評価の方法・授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。

学修成果の評価

・学修成果の有無やその内容を評価するために、科目の特性に応じて、おおよそ次の4種類の方法のうちの一つまたは複数に合わせて評価を行う。

① 筆答試験による評価

② レポート試験による評価

③ 実技試験による評価

④ 授業への取組状況や小テストなど、担当者が設定する方法による評価

・卒業論文（特別研究）の評価は、論文及び発表評価によって行う。

◎食品栄養学科

【教育課程編成・実施の方針】

未来の持続可能な農業を構築するために、文理融合型の人材を育成する必要がある。そこで、農学部「教育理念・目的」、「卒業認定・学位授与の方針」に基づいて、「農学概論」を核に、「演習」と「講義」、「実習」を組み合わせた教育課程を編成・展開し「食」と「農」を理解できる基礎知識基盤を構築する。

農学部 食品栄養学科の教育内容

○教養教育科目にかかる教育内容 ●専攻科目にかかる教育内容

①建学の精神の具現化

○建学の精神の意義について理解するために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想A」・「仏教の思想B」）を全学必修科目として開講する。

●「仏教の思想」と農学研究を架橋するために初年次の必修科目として「食と農の倫理」（2単位）を設置する。

② (③の基礎となる)「知識・技能」の修得 ○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。

○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講し、基幹科目を設置する。

●分野が広範にわたる農学を総合的に理解するため「農学概論」（2単位）を必修科目として設置する。

●情報リテラシー等を学ぶ「入門ゼミ」（2単位）を全員履修科目として設置する。

●未来の持続可能な農業を構築するために、文理融合型の人材を育成する。農学部の「教育理念・目的」「学位授与の方針」に基づいて、「農学概論」を核に、「演習」と「講義」、「実習」を組み合わせた教育課程を編成・展開し「食」と「農」を理解できる基礎知識基盤を構築する。

●学科横断型カリキュラムにより文理融合型の知識基盤を構築する。低年次において他学科で開講される科目の履修を要件化し、理系・文系の垣根を越えた教育体系とする。

●人の健康を支える上で必要不可欠な「食と栄養」について学ぶ。また、人々の健全な食生活をサポートする管理栄養士の養成課程でもあることから、基礎栄養学をはじめ、生理学、生化学、食品化学などの専門基礎科目を学ぶ。

③ (④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上

○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。

○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講する。

●農業に関するトータルプロセスを実体験できるプログラム「食の循環実習Ⅰ・Ⅱ」（各2単位）を必修科目として設置する。この科目では、講義・演習と実験・実習の組み合わせにより「食」と「農」を総合的に理解させ、かつ学科横断型科目として実施する事で学科の枠組みを超えた多面的な学びを達成し、加えて学生交流を誘起する。

●人々の健全な食生活をサポートする管理栄養士の養成課程でもあることから、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論などの実践的専門科目を学ぶ。

●実験科目を通じて食と栄養の仕組みや食品加工の実際を観察・体験し、学内

外での実習を通じて食に携わる人材としての資質を形成する。

④主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上

- 英語で書かれた文献の講読を通して最新の海外の研究動向を把握する。
- 臨地校外実習を実施することで、管理栄養士が活躍する現場で、様々な他職種の人々との協同性を養う。
- 講義と実験・実習で身につけた知識と技術を活用して、自ら学び研究する総合演習や特別研究を行う。
- 社会が必要とする職業観・勤労観を醸成し、生涯を通じた持続的な就業力を育成するために、「キャリア啓発科目」と「キャリア形成科目」、「臨地実習」を開設する。

教育方法

- ・学生が自らの学修目的にあわせて各科目の性格やその科目の開講時期（配当semester）を考慮しながら系統的に履修できるよう科目（講義・演習・講読・実技・実験・実習等）を開設する。
- ・全ての科目は、講義概要・到達目標・講義方法・授業評価の方法・授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。

学修成果の評価

- ・学修成果の有無やその内容を評価するために、科目の特性に応じて、おおよそ次の4種類の方法のうちの一つまたは複数を合わせて評価を行う。
 - ① 筆答試験による評価
 - ② レポート試験による評価
 - ③ 実技試験による評価
 - ④ 授業への取組状況や小テストなど、担当者が設定する方法による評価
- ・卒業論文（特別研究）の評価は、論文及び発表評価によって行う。

◎食料農業システム学科

【教育課程編成・実施の方針】

未来の持続可能な農業を構築するために、文理融合型の人材を育成する必要がある。そこで、農学部「教育理念・目的」、「卒業認定・学位授与の方針」に基づいて、「農学概論」を核に、「演習」と「講義」、「実習」を組み合わせた教育課程を編成・展開し「食」と「農」を理解できる基礎知識基盤を構築する。

農学部 食料農業システム学科の教育内容

○教養教育科目にかかる教育内容 ●専攻科目にかかる教育内容

①建学の精神の具現化

○建学の精神の意義について理解するために、1年次配当（第1・第2semester配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想A」・「仏教の思想B」）を全学必修科目として開講する。

- 「仏教の思想」と農学研究を架橋するために初年次の必修科目として「食と農の倫理」（2単位）を設置する。

②（③の基礎となる）「知識・技能」の修得

- 外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。
- 諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講し、基幹科目を設置する。
- 分野が広範にわたる農学を総合的に理解するため「農学概論」（2単位）を必修科目として設置する。
- 情報リテラシー等を学ぶ「入門ゼミ」（2単位）を全員履修科目として設置する。
- 未来の持続可能な農業を構築するために、文理融合型の人材を育成する。農学部「教育理念・目的」「学位授与の方針」に基づいて、「農学概論」を核に、「演習」と「講義」、「実習」を組み合わせた教育課程を編成・展開し「食」と「農」を理解できる基礎知識基盤を構築する。
- 学科横断型カリキュラムにより文理融合型の知識基盤を構築する。低年次において他学科で開講される科目の履修を要件化し、理系・文系の垣根を越えた教育体系とする。
- 「食」と「農」に関わる自然科学的な知識と「農」の実態に関する確かな認識を前提としつつ、「食」と「農」に関わる国内外の社会問題・経済問題に取り組む能力を養うことを目的としている。そのために、農業技術や食に関わる自然科学的な基礎知識を取得するための講義・実習を一定程度受講した上で、経済学、経営学、会計学、社会学といった社会科学関連の基礎科目を中心に学ぶ。

③(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)の発展・向上

- 外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。
- 幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講する。
- 農業に関するトータルプロセスを実体験できるプログラム「食の循環実習Ⅰ・Ⅱ」（各2単位）を必修科目として設置する。この科目では、講義・演習と実験・実習の組み合わせにより「食」と「農」を総合的に理解させ、かつ学科横断型科目として実施する事で学科の枠組みを超えた多面的な学びを達成し、加えて学生交流を誘起する。
- 「食」と「農」に関わる自然科学的な知識と「農」の実態に関する確かな認識を前提としつつ、「食」と「農」に関わる国内外の社会問題・経済問題に取り組む能力を養うことを目的としている。そのために、農業技術や食に関わる自然科学的な基礎知識をふまえて、社会科学関連の応用科目を中心に学ぶ。

④主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上

- 英語で書かれた文献の講読を通して最新の海外の研究動向を把握する。
- 調査・実習等を通じて、農業や食産業の実態把握に努める。さらに、講義と実習で得た知識と知見を活用して、自ら学び研究する演習や卒業研究を行う。
- 社会が必要とする職業観・勤労観を醸成し、生涯を通じた持続的な就業力を

育成するために、「キャリア啓発科目」と「キャリア形成科目」を開設する。

教育方法

- ・学生が自らの学修目的にあわせて各科目の性格やその科目の開講時期（担当セメスター）を考慮しながら系統的に履修できるよう科目（講義・演習・講読・実技・実験・実習等）を開設する。
- ・全ての科目は、講義概要・到達目標・講義方法・授業評価の方法・授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。

学修成果の評価

- ・学修成果の有無やその内容を評価するために、科目の特性に応じて、おおよそ次の4種類の方法のうちの一つまたは複数に合わせて評価を行う。
 - ① 筆答試験による評価
 - ② レポート試験による評価
 - ③ 実技試験による評価
 - ④ 授業への取組状況や小テストなど、担当者が設定する方法による評価
- ・卒業論文（特別研究）の評価は、論文及び発表評価によって行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表
<https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen>）

（概要）

【入学者受入れの方針】

生命・資源・食料・経済 ～未来への持続可能な農業をめざして～

農学部の教育は、自然科学の領域だけでなく、人文・社会科学の領域や食品栄養学の領域を含む、幅広い分野の教育を、融合的に行うことをめざしている。

そのため、次のような人が入学することを求めている。

1. これら「食」と「農」を支える領域への幅広い興味と、農学への強い意欲をもっている人
2. 農学の教育を行うにあたって、自然科学と社会科学に関心があり、関連する実習や実験をやり遂げる意思と能力をもった人

については、高等学校等での学習では、農学部で教育を受ける上で基本となる高校での教科を幅広く基礎的事項についてしっかり勉強することを望む。

植物生命科学科

農業の基礎となる農作物の生育や変異の仕組みを正しく理解するために、植物を中心とした生命科学領域を学ぶ。このため、生物学、化学をはじめとする自然科学的基礎学力を習得し、コミュニケーション能力と学びに対する積極性を有している人を求める。

資源生物科学科

「食の安全・安心」を支える農作物を生産する上で不可欠な技術などを正しく理解するために、農業に直結する自然科学領域を中心に学ぶ。このため、生物学、化学をはじめとする自然科学的基礎学力を習得し、コミュニケーション能力と学びに対する積極性を有している人を求める。

食品栄養学科

人の健康維持・増進に役立つ「食」について学ぶ。また、管理栄養士養成課程であることから、人々の健全な食生活をサポートするために必要な専門的科目を中心に学ぶ。このため、生物学、化学をはじめとする自然科学的基礎学力を習得し、コミュニケーション能力と学びに対する積極性を有している人を求める。

食料農業システム学科

「食」と「農」に関わる問題を、単なる技術的な問題ではなく、「社会や経済の仕組みの問題」として正しく理解し、その解決方法を検討・考察するために「食と農に関わる社会科学」を中心に学ぶ。文系科目の基礎学力がある人、もしくは理系科目の基礎学力がある人の双方を希望する。また、「食」と「農」に関わる国内外の社会問題・経済問題を学ぶためには、農業の現場においてフィールドワークを行うことが重要な意味をもつため、コミュニケーション能力と学びに対する積極性を有している人を求める。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：大学ホームページにて公表

<https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/organaization/education.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	4人	—					4人
文学部	—	61人	30人	15人	0人	0人	106人
経済学部	—	21人	22人	5人	0人	0人	48人
経営学部	—	26人	9人	0人	0人	0人	35人
法学部	—	35人	12人	2人	0人	0人	49人
理工学部	—	49人	18人	16人	9人	0人	92人
社会学部	—	32人	15人	9人	0人	0人	56人
政策学部	—	17人	10人	1人	0人	2人	30人
国際学部	—	27人	8人	5人	0人	0人	40人
農学部	—	30人	11人	11人	0人	0人	52人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
1人		1,132人					1,133人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：大学ホームページで公表 https://www.ryukoku.ac.jp/who/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	911人	921人	101.1%	3,742人	3,828人	102.3%	49人	12人
経済学部	570人	538人	94.4%	2,304人	2,337人	101.4%	12人	6人
経営学部	493人	484人	98.2%	1,982人	2,051人	103.5%	5人	4人
法学部	420人	414人	98.6%	1,690人	1,727人	102.2%	5人	2人
理工学部	580人	586人	101.0%	2,344人	2,278人	97.2%	12人	2人
社会学部	530人	523人	98.7%	2,196人	2,240人	102.0%	38人	33人
政策学部	292人	280人	95.9%	1,178人	1,230人	104.4%	5人	5人
国際学部	481人	477人	99.2%	1,984人	1,969人	99.2%	30人	19人
農学部	416人	431人	103.6%	1,724人	1,661人	96.3%	30人	1人
合計	4,693人	4,654人	99.2%	19,144人	19,321人	100.9%	186人	84人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	841人 (100%)	58人 (6.9%)	681人 (81.0%)	102人 (12.1%)
経済学部	586人 (100%)	4人 (0.7%)	516人 (88.0%)	66人 (11.3%)
経営学部	513人 (100%)	3人 (0.6%)	471人 (91.8%)	39人 (7.6%)
法学部	411人 (100%)	10人 (2.4%)	339人 (82.5%)	62人 (15.1%)
理工学部	615人 (100%)	91人 (14.8%)	501人 (81.5%)	23人 (3.7%)
社会学部	677人 (100%)	8人 (1.2%)	619人 (91.4%)	50人 (7.4%)
国際文化学部	41人 (100%)	0人 (0.0%)	25人 (61.0%)	16人 (39.0%)
政策学部	253人 (100%)	10人 (4.0%)	225人 (88.9%)	18人 (7.1%)
国際学部	461人 (100%)	18人 (3.9%)	385人 (83.5%)	58人 (12.6%)
農学部	362人 (100%)	29人 (8.0%)	314人 (86.8%)	19人 (5.2%)
合計	4,760人 (100%)	231人 (4.9%)	4,076人 (85.6%)	453人 (9.5%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

本学で開講されるすべての講義について、授業計画書（シラバス）を作成し、公表している。授業計画書（シラバス）の作成にあたっては、教員に「シラバス作成の手引き」を提示し、授業計画書（シラバス）の目的や役割を説明している。また手引きでは、授業計画書（シラバス）に記載する到達目標や講義方法、成績評価の方法等の各項目について記載方法や記載例を示して説明を行っており、各教員は手引きに基づき授業計画書（シラバス）の作成を行っている。

また、授業計画書（シラバス）については、以下のスケジュールで作成し、大学ホームページにて公表している。

- ・ 11月 「シラバス作成の手引き」の提示
- ・ 12月下旬 授業担当者へ授業計画書（シラバス）作成依頼
- ・ 12月下旬～3月中旬 授業計画書（シラバス）の作成
- ・ 3月中旬 授業計画書（シラバス）の公表

授業計画書の公表：

大学ホームページにて公表

<https://capella.ws.ryukoku.ac.jp/RSW/CNoSSO.do>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

すべての学部において、以下の成績評価方法と成績評価の基準を履修要項にて示した上で、授業科目における学修成果の評価を厳格かつ適正に行っている。

1. 成績評価の方法

成績評価は、主に次の4種類の方法で行っており、これらのうちのひとつまたは複数を組み合わせて評価している。各科目の成績評価方法は、その科目の特性に応じて授業担当者によって定められており、その内容はシラバスに明示している。

- ① 筆答試験による評価
- ② レポート試験による評価
- ③ 実技試験による評価
- ④ 授業への取組状況や小テストなど、上記試験による評価の他に、担当者が設定する方法による評価

2. 成績評価の基準

- ① 成績評価は、100点を満点とし、60点以上を合格、それを満たさない場合は不合格とする。
- ② 一度合格点を得た科目（＝既修得科目）は、いかなる事情があっても、再度履修し成績評価を受けることはできない。
- ③ 履修登録した科目の試験を受験しなかった場合、その試験の評価は0点とする。ただし、この場合でも、試験による評価以外に授業担当者が設定する方法により評価される場合がある。

④ 段階評価と評点の関係は、次のとおりである。

段階評価と評点

S (90～100 点) A (80～89 点) B (70～79 点) C (60～69 点)

上記の段階評価以外に、実習科目は G (合格)・D (不合格) で評価する場合がある。単位認定された科目の場合は N (認定) となる。

⑤ 学業成績証明書は、すべて段階評価で表示し、不合格科目は表示しない。

⑥ 学業成績表は、第 1 学期 (前期) 分を 9 月中旬、第 2 学期 (後期) 分を 3 月下旬に配付する。

学部名	学科名	卒業に必要な となる単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	真宗学科	124 単位	有・無	192 単位
	仏教学科	124 単位	有・無	192 単位
	哲学科	124 単位	有・無	192 単位
	臨床心理学科	124 単位	有・無	192 単位
	歴史学科	124 単位	有・無	192 単位
	日本語日本文学科	124 単位	有・無	192 単位
	英語英米文学科	124 単位	有・無	192 単位
経済学部	現代経済学科	124 単位	有・無	180 単位
	国際経済学科	124 単位	有・無	180 単位
経営学部	経営学科	125 単位	有・無	181 単位
法学部	法律学科	124 単位	有・無	176 単位
理工学部	数理情報学科	124 単位	有・無	196 単位
	電子情報学科	124 単位	有・無	196 単位
	機械システム工学科	124 単位	有・無	196 単位
	物質化学科	124 単位	有・無	196 単位
	情報メディア学科	124 単位	有・無	196 単位
	環境ソリューション 工学科	124 単位	有・無	196 単位
社会学部	社会学科	124 単位	有・無	192 単位
	コミュニティ マネジメント学科	124 単位	有・無	192 単位
	現代福祉学科	124 単位	有・無	192 単位
政策学部	政策学科	124 単位	有・無	176 単位
国際学部	国際文化学科	124 単位	有・無	180 単位
	グローバル スタディーズ学科	124 単位	有・無	180 単位
農学部	植物生命科学科	124 単位	有・無	176 単位
	資源生物科学科	124 単位	有・無	176 単位
	食品栄養学科	124 単位	有・無	176 単位
	食料農業システム学科	124 単位	有・無	176 単位
G P A の活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：大学ホームページにて公表

https://www.ryukoku.ac.jp/about/campus_traffic/index.html

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

a. 2019 年度入学生

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
文学部	真宗学科	761,000 円	200,000 円	60,000 円	施設費
	仏教学科				
	哲学科				
	臨床心理学科				
	歴史学科 (文化遺産学専攻を除く)				
	日本語日本文学科				
	英語英米文学科				
経済学部	現代経済学科	761,000 円	200,000 円	60,000 円	施設費
	国際経済学科				
経営学部	経営学科	761,000 円	200,000 円	60,000 円	施設費
法学部	法律学科	761,000 円	200,000 円	60,000 円	施設費
文学部	歴史学科 文化遺産学専攻	761,000 円	200,000 円	95,900 円	施設費、 実習料
理工学部	数理情報学科	979,000 円	200,000 円	283,600 円	施設費、 実験実習料
	情報メディア学科				
	電子情報学科				
	機械システム工学科				
	物質化学科				
	環境ソリューション 工学科				
社会学部	社会学科	761,000 円	200,000 円	95,900 円	施設費、 実験実習料
	コミュニティ マネジメント学科				
	現代福祉学科				
政策学部	政策学科	761,000 円	200,000 円	75,000 円	施設費、 実習料
国際学部	国際文化学科	806,000 円	200,000 円	70,000 円	施設費、 実習料
	グローバル スタディーズ学科	961,000 円	200,000 円	230,000 円	施設費、 留学実習料
農学部	植物生命科学科	979,000 円	200,000 円	333,600 円	施設費、 実験実習料
	資源生物科学科				
	食品栄養学科	979,000 円	200,000 円	433,600 円	施設費、 実験実習料
	食料農業 システム学科	979,000 円	200,000 円	95,900 円	施設費、 実験実習料

編入学者、転入学者及び再入学者は、当該年次に相当する授業料、実験実習料、実習料、留学実習料及び施設費とする。

b. 2016～2018 年度入学生

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
文学部	真宗学科	761,000 円	0 円	260,000 円	施設費
	仏教学科				
	哲学科				
	臨床心理学科				
	歴史学科 (文化遺産学専攻を除く)				
	日本語日本文学科				
	英語英米文学科				
経済学部	現代経済学科	761,000 円	0 円	295,900 円	施設費、 実習料
	国際経済学科				
経営学部	経営学科	761,000 円	0 円	295,900 円	施設費、 実習料
法学部	法律学科	761,000 円	0 円	295,900 円	施設費、 実習料
理工学部	数理情報学科	979,000 円	0 円	483,600 円	施設費、 実験実習料
	情報メディア学科				
	電子情報学科				
	機械システム工学科				
	物質化学科				
	環境ソリューション工学科				
社会学部	社会学科	761,000 円	0 円	295,900 円	施設費、 実験実習料
	コミュニティ マネジメント学科				
	現代福祉学科				
政策学部	政策学科	761,000 円	0 円	275,000 円	施設費、 実習料
国際学部	国際文化学科	776,000 円	0 円	260,000 円	施設費、 実習料
	グローバル スタディーズ学科	931,000 円	0 円	420,000 円	施設費、 留学実習料
農学部	植物生命科学科	949,000 円	0 円	523,600 円	施設費、 実験実習料
	資源生物科学科				
	食品栄養学科	949,000 円	0 円	623,600 円	施設費、 実験実習料
	食料農業 システム学科	949,000 円	0 円	285,900 円	施設費、 実験実習料

c. 2015 年度以前入学生

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
文学部	真宗学科	731,000 円	0 円	250,000 円	施設費
	仏教学科				
	哲学科				
	臨床心理学科				
	歴史学科				
	日本語日本文学科				
	英語英米文学科				
経済学部	現代経済学科	731,000 円	0 円	250,000 円	施設費
	国際経済学科				
経営学部	経営学科				
法学部	法律学科				
政策学部	政策学科				
国際文化学部	国際文化学科				
理工学部	数理情報学科				
	情報メディア学科				
	電子情報学科				
	機械システム工学科				
	物質化学科				
	環境ソリューション 工学科				
社会学部	社会学科	731,000 円	0 円	285,900 円	施設費、 実験実習料
	コミュニティ マネジメント学科				
	臨床福祉学科				
	地域福祉学科				
国際学部	国際文化学科	776,000 円	0 円	250,000 円	施設費、 実習料
	グローバル スタディーズ学科	931,000 円	0 円	380,000 円	施設費、 留学実習料
農学部	植物生命科学科	949,000 円	0 円	523,600 円	施設費、 実験実習料
	資源生物科学科	949,000 円	0 円	623,600 円	施設費、 実験実習料
	食品栄養学科	949,000 円	0 円	623,600 円	施設費、 実験実習料
	食料農業 システム学科	949,000 円	0 円	285,900 円	施設費、 実験実習料

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>学生の修学に係る支援については、「スチューデントcommons」「グローバルcommons」「ナレッジcommons」の3つの機能別commonsで構成する「龍谷大学ラーニングcommons」において展開している。</p> <p>「スチューデントcommons」は、学生の主体的な知的活動を可視化することによって周辺にいる様々な学生の参加度も増幅させることを目的とした学修空間であり、アカデミックスキルの向上や修得のため、commonsチューターによるチュータリングを実施しており、学修支援拠点（窓口）としての機能を担っている。</p> <p>「グローバルcommons」は、自律型言語学習支援施設、留学・奨学金情報に関する資料、各種語学試験や語学学習に関する様々な教材を備え、国際交流を推進する様々なプログラムを展開すると共に、留学経験者で構成する学生スタッフによる留学アドバイスを行っている。</p> <p>「ナレッジcommons」は、図書館の豊富な学術情報を活用しながら、学生が主体的に「調べ、考え、書き、作る」知の空間として展開している。</p>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>本学が定める「キャリア支援の方針」にもとづき、学生の職業観・勤労観を醸成し、主体的な進路選択、希望する進路の実現のために、「キャリア教育」と「進路・就職支援」を二本柱として、全学的かつ体系的にキャリア支援を進めている。特に「進路・就職支援」では、学生と企業との出会いの場を創出するため、大手企業や優良な中堅・中小企業と学生との接点を増やす取組を強化している。加えて、インターンシップへの対策、UJIターン就職支援などを積極的に推進している。さらに学生個々の状況を踏まえた face to face の面談を重視し、きめ細かな支援を行っている。</p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>保健管理センターにおいて、診療所及びこころの相談室を開設し、学生及び教職員の身体的・精神的な健康の保持・増進にかかる業務を所管している。</p> <p>診療所では、予防に重点を置いた保健管理として、学生・教職員を対象に健康診断を実施し、健康状態の把握と病気の早期発見・早期治療に繋がるよう取り組む。</p> <p>相談室の運用においては、特に修学上の困難を抱える学生を支援するため、こころの相談室と関連部署との連携強化と教育的配慮のあり方について検討し支援策の改善・充実を図るとともに、支援する学生スタッフの育成についても検討している。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：大学ポータルにて公表

<http://up-j.shigaku.go.jp/school/category01/00000000504501000.html>